

## 第4期高幡地域アクションプランの進捗状況確認資料

高 幡 地 域 本 部

令和5年2月6日（月）

## 高幡地域アクションプランの進捗状況確認資料 (令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開)

R5.2.6

高幡地域本部

### 1 地域アクションプランの令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開(総括)

#### (1) 総評

高幡地域においては、全40項目の地域アクションプランについて実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議や進捗管理、各種支援制度の活用などにより目標の達成に向けて取り組みを進めてきた。

新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の両立に取り組む中で、観光客の入込客数等回復の兆しが見られるものの、原油価格や物価の高騰などにより、地域経済の回復は不透明な状況にあり、様々な対策を講じているところである。

そうした中、農業分野では、日本一を誇るミョウガの更なる生産拡大を目標に、循環型養液システム、ヤシガラ培地の再生・活用システム、優良種茎の安定供給体制を構築するとともに、認知度の向上と一層の消費拡大に取り組んでおり、販売額は約67億円と過去最高となっている。

また、畜産関係では、四万十町において、四万十ポークブランド推進協議会を中心に、安心・安全な豚肉を安定的に供給できる体制を再構築し、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す取り組みを進めている。

梶原町では、梶原町雉生産組合から集落活動センター四万川が事業承継を受けて、「産業振興推進総合支援事業費補助金」を活用した加工場の整備を行い、生産から流通販売まで一貫した取り組みを進めている。

林業分野では、管内の大型製材工場の操業開始に伴う木材供給量の増加や林地残材等を活用した木質バイオマスの利用拡大が進むとともに、特用林産物の生産・販売や自伐林家等による小規模林業の振興など、中山間地域を活性化する取り組みを進めている。引き続き、四万十地域の森林資源の利用を促進するため、「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源のブランド化や販売促進に取り組むとともに、循環型社会の構築を目指し、木質バイオマスの有効利用に取り組んでいく。

水産分野では、業務需要が大きく減少するなど厳しい状況にあるが、須崎市における養殖マダイの生産者グループと民間事業者、漁協が連携し、加工場の拡張などにより他産地の生産動向や県外大手出荷事業者の販売戦略に左右されにくい販売力の構築に取り組んでいる。

商工業分野では、中土佐町において、商工会や観光協会、事業者等が連携し、お互いの強みを生かした中土佐町全体のブランド力の強化や地産外商に取り組むとともに、道の駅なかとさでは苺ビールなど地域資源を活用した商品開発や魅力的な店づくりなどにより、地域の拠点施設としての充実を図っている。

観光分野においては、新たな旅行スタイルに対応した四国カルストエリア一帯のブランド化や滞在型の観光拠点「ロゴスパークシーサイド高知須崎」と海の体験観光を楽しむ浦ノ内マリパークの充実、「須崎大漁堂」のオープンなど、魅力的な観光資源が順次整備されつつある。また、観光博覧会に向けて、草花スポットを中心に地域ならではの食、自然体験、観光資源を周遊できるよう、ハード・ソフト両面で受入体制の強化を行うとともに、「一般社団法人奥四万十高知」を中心に、広域での効果的な情報発信や滞在型観光の推進を図り、交流人口の拡大や地域経済の活

性化に繋げていく。

令和5年度は、梶原町で商工業分野に新たに「梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販路拡大」が加わるなど全39項目。引き続き実行支援チームを編成し、市町村や関係機関と連携し、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいく。

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	1 くらしおミョウガ生産拡大 大クラスタープロジェクト (須崎市、中土佐町、津野町)  【実施主体】 ◎・JA土佐くらしお ・須崎市 ・中土佐町 ・津野町 ・(株)E-システム	(1)新規雇用者数(累計)  - (R元)	R2	-	-	-	1 ミョウガの生産拡大 ・国及び県事業を活用したハウス等整備 ・ヤシガラ活用スキーム取組状況の確認	1 ミョウガの生産拡大 ・管内連絡協議会で年間活動計画を共有(5/20) ・R4年度規模拡大生産者ハウス4名収穫開始 ・JA出資法人「(株)村営みのり」で期間雇用から周年雇用に1名増員 ・ミョウガ部会で規模拡大生産者ハウス4名がR4年度から収穫開始 ・今年度ハウス整備事業なし、次年度ハウス整備事業50a申請見込み	累計6名(R4年5名) ・R4目標達成率：300%	S	(成果) ・ミョウガの生産拡大に伴い、関連する企業(1名)、部会(4名)での雇用者数は順調に増加している。  (課題) なし  (今後の方向性) 生産拡大に向けハウス等の整備に取り組む。	1 ミョウガの生産拡大 ・国及び県事業を活用したハウス等整備 ・ヤシガラ活用スキーム取組状況の確認
			R3	1名	1名	A						
			R4	2名	6名	S						
			R5	4名								
	(2)ミョウガを使ったメニューの定番化(累計)  0品 (R元)	R2	-	-	-	2 ミョウガの販売促進 ・県外消費宣伝活動 ・地域内消費拡大活動 ・とさつ子広場からの情報発信	2 ミョウガの販売促進 ・管内連絡協議会で年間活動計画を共有(5/20) ・中土佐町「かつお祭り」への提供(5月) ・東京「ドトールコーヒー」でメニューフェア(①高知ミョウガ香るたけのことローストチキンの柚ペロンチーノ)(3/31～6/29) ・JA高知県とともに消費宣伝活動実施(パンフ配布(②みょうがのポテサラ)、動画配信(QRコード)等)「高知を食べよう」「ミョウガキャンペーン」「高知のミョウガを買って5000円をGETしよう！」(5/1～8/31) ・まるごと高知で「土佐ハーブ」のひとつとしてPR販売(6/4、5) ・市場関係者へのミョウガメニューの提案(③ミョウガと豚肉のポンス蒸し他レシビパンフ)(6/13東京シティ青果) ・地域内小学校への出前授業(5/25多ノ郷小学校) ・メディア、企業コラボ等によるミョウガメニューの提案(④ミョウガサンド、⑤ミョウガジェラート、⑥ミョウガと長いもの梅肉和え⑦ミョウガ運根のはんぺん⑧ミョウガのパウンドケーキ) ・地域内外販促活動実施 ・販促時のTVモニターの活用(コロナ禍でのマネキンの代替)	8メニュー提案(11月末時点) ・年度末に定番メニューとして実績を記載するため、目標達成率は未記載	-	(成果) 県内外消費宣伝活動やミョウガメニューの提案は順調に行われている  (課題) なし  (今後の方向性) 消費拡大に向け情報発信に取り組む。	2 ミョウガの販売促進 ・県外消費宣伝活動 ・地域内消費拡大活動 ・とさつ子広場からの情報発信	
		R3	2品	6品	S							
		R4	2品	-								
		R5	4品									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
	(3)ミョウガ生産拡大面積 - (R元)		R2	-	-	-	1 ミョウガの生産拡大 ・国及び県事業を活用したハウス等整備	1 ミョウガの生産拡大 ・管内連絡協議会で年間活動計画を共有(5/20) ・今年度ハウス整備事業なし、次年度ハウス整備事業50a申請見込み ・県事業(環境制御高度化事業)を活用した環境制御装置整備 (1次募集:28戸申請 2次募集:6戸申請 3次募集:3戸申請)	62a減 R4目標達成率:70%未満	D	(成果) ・7/4~5大雨により被害面積約670aの被害をうけたため、次園芸年度は休作、品目転換等により62a減となったが、次年度のハウス整備事業の計画や、新規就農者も2名見込まれるためR5年度は面積拡大予定。  (課題) なし  (今後の方向性) 生産拡大に向けハウス等の整備に取り組む。	1 ミョウガの生産拡大 ・国及び県事業を活用したハウス等整備
			R3	55a	91a	S						
			R4	50a	62a減	D						
			R5	200a (R2~5累計)								
	(4)ミョウガ出荷量※ 園芸年度9月~8月 3,614t (R元)		R2	-	-	-	3 ミョウガの収量・品質の向上 ・ミョウガの収量・品質向上に係る試験等の実施 ・循環型養液システムの導入に向けた推進活動 ・優良種根茎の確保・培地吹き飛ばし事業化の検討	3 ミョウガの収量・品質の向上 ・管内連絡協議会で年間活動計画を共有(5/20) ・講習会開催による栽培指導、花蕾腐敗対策啓発(4~7月8回 延べ388人) ・高温対策遮熱資材試験、IPM実証調査(4~9月15回18戸) ・循環型養液システム導入に向けたJAとの打ち合わせ(4~10月2回) 養液肥料3社試験圃設置(12月) ・種根茎の貯蔵技術予備試験(5~10月) ・使用済み培地処理(吹き飛ばし) 機械開発依頼中	3,660 t R4目標達成率:98%	B	(成果) ・7/4~5大雨による被害面積約670a、産地の平均反収はR3:4.7t/10a→R4:5.0t/10aと伸びており、大雨被害がなければR4年度目標出荷量3,740tは確実に超えていたと思われる。  (課題) なし  (今後の方向性) 循環型溶液システムの導入に取り組む。	3 ミョウガの収量・品質の向上 ・ミョウガの収量・品質向上に係る試験等の実施 ・循環型養液システムの導入に向けた推進活動 ・優良種根茎の確保・培地吹き飛ばし事業化の検討
			R3	3,680 t	3,528 t	B						
			R4	3,740 t	3,660 t	B						
			R5	3,800 t								
	<参考指標> ヤシガラ培地のJA集積量		R2	-	-	-	1 ミョウガの生産拡大 ・国及び県事業を活用したハウス等整備 ・ヤシガラ活用スキーム取組状況の確認	1 ミョウガの生産拡大 ・管内連絡協議会で年間活動計画を共有(5/20) ・3首長とJA役員との意見交換会で、今年度ヤシガラ集積計画1,500tを確認(8/18) ・8月より再生ヤシガラ工場稼働(使用済ヤシガラ培地の受けこみ開始) ・ヤシガラ対策会議を毎月開催しスキームを確認(8~12月5回)	1,035t(11月10日現在) R4目標達成率:- 月によって集積量変動するので目標達成率は未記載	-	(成果) JA、生産者、(株)Eシステムにより使用済み培地集積状況を確認しながら再生ヤシガラ工場は運営されている。  (課題) なし  (今後の方向性) ヤシガラ活用に向けた工場運営に取り組む。	1 ミョウガの生産拡大 ・国及び県事業を活用したハウス等整備 ・ヤシガラ活用スキーム取組状況の確認
			R3	1,700 t	1,100t	D						
R4			2,000 t									
R5			2,500 t									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>2 大野見米のブランド化</b> (中土佐町)  <b>【実施主体】</b> ・おおのみエコロジーファーマーズ (以下、E F)	・エコ米販売量  11.3 t (R元)	R2	12.0t	10.7t	B	<b>1 生産組織の体制充実</b> ・組織活動への支援 (総会：6月、執行委員会：5月) ・米コンクール出品への支援 (執行委員会：9月)  <b>2 環境保全型栽培技術の確立と生産量の栽培面積、生産量の拡大</b> ・育苗管理、植付以降の本圃管理の徹底 (現地巡回指導：5～6月) ・本圃管理 (水管理、病害虫防除、穂肥、収穫適期等) の指導 (現地巡回・指導：7～8月、収穫調査：9月) ・生産量に関する情報収集 (聞き取り調査：11月、収量等まとめ・分析：11月) ・次年度、水稻生産等に向けた検討 (執行委員会：1月)  <b>3 高付加価値米の販路拡大と販路の確保</b> ・交流活動への支援 (田植え交流：5月) ・地域外との交流活動の実施に向けた支援 (稲刈り交流：9月) ・米コンクール出品への支援 (2出品：9、10月、コンクール視察：10月) ・交流活動報告会への支援 (県立大学との打合せ：3月)	<b>1 生産組織の体制充実</b> ・総会において、新規会員の加入 (1人)、高知県立大学との交流の継続及び日程や内容の調整を行う担当者等が決まった。今年度の交流事業の内容は、「お米の勉強会」となった (打合せ：5/19・1人、7/26・5人、総会：6/14・5人 OBを含む)。 ・2人の新規会員の加入が決まった (執行委員会：7/28)。 ・販売単価の確認や水稻収穫調査結果の検討を行った (10/25・7人)。  <b>2 環境保全型栽培技術の確立と生産量の栽培面積、生産量の拡大</b> ・水稻本田における病害 (いもち病) について、大野見地域の5月植え水田で発生が見られたので、状況を伝え注意喚起を行った (6/16 1人)。 その後、EF会員のほ場で、病害の発生が見られたので、防除指導を行った (7/19・1人、8/19・1人)。 ・出穂後の水管理について指導を行った (9/15・2人)。 ・収穫適期について指導を行った (10/1・5・6・4人)。 ・本年産の収量、病害虫の発生は、一部、斑点米カメムシ類の被害により等級が落ちたが、一般的に病害虫の影響は少なく、収量は去年より高かった。 ・生産量：12.9t (11/29聞き取り調査) ・次年度については、会員も増えるため、水管理や病害虫 (ごま葉枯病、ウンカ類、カメムシ類) の防除を徹底することとした (10/25)。  <b>3 高付加価値米の販路拡大と販路の確保</b> ・田植え交流：コロナ感染症拡大防止のため、中止。 ・県立大学 (コメリッシュ) との打合せにより、お米の勉強会を開催することになった (打合せ：7/26、9月初旬予定、勉強会：9/30)。 ・県立大学において、水稻栽培 (振興センター) や中土佐町の魅力について (EF) の勉強会を開催して、EFや中土佐町の魅力、そして特色ある米つくり (特別栽培米) について発表した (9/30・15人)。 ・県立大学生に対し稲刈り体験を支援した (10/1・10人)。 ・米コンクールの出品は、組合員減少 (3人→2人) でグループとして取り組めず、出品できなかった。	12.9t (11月時点)  ・R4目標達成率：92% ・対前年同期比：123%	<b>B</b>	<b>(成果)</b> ・新規会員3人の加入 (内1人は販売を担う事業者。残り2人の生産・販売活動は、R5年度から)。 ・高知県立大学とEFの交流の継続 お米の勉強会やEFや中土佐町の魅力について発表 ・2戸、約3.5haでの栽培継続 (R5年度から、4戸、約5.3ha栽培予定) ・生産量：12.9t  <b>(課題)</b> ・新規会員3戸の内、1戸が非農家である。そのため、稲作について学んでもらい、理解を深めていく必要がある。 ・EFが特別栽培のため、化学農薬の使用に制限がある。そのため、今後とも耕種の防除に努める。  <b>(今後の方向性)</b> ・活力ある組織活動の継続。	<b>1 生産組織の体制充実</b> ・組織活動への支援 (総会：6月、執行委員会：5月、7月、11月、2月) ・米コンクール出品への支援 (執行委員会：9月)  <b>2 環境保全型栽培技術の確立と生産量の栽培面積、生産量の拡大</b> ・育苗管理、植付以降の本圃管理の徹底 (現地巡回指導：4、5月) ・本圃管理 (水管理、病害虫防除、穂肥、収穫適期等) の指導 (現地巡回・指導：7～8月、収穫調査：9月) ・生産量に関する情報収集 (聞き取り調査：11月、収量等まとめ・分析：11月) ・次年度、水稻生産等に向けた検討 (執行委員会：2月)  <b>3 高付加価値米の販路拡大と販路の確保</b> ・交流活動への支援 (田植え交流：6月) ・地域外との交流活動への支援 (稲刈り交流：10月) ・米コンクール出品への支援 (2出品：9月) ・交流活動報告会への支援 (県立大学との打合せ：2月)
			R3	13.0t	10.5t	C						
			R4	14.0t								
			R5	15.0t								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>3 栲原産キジ肉の生産・販売拡大</b> (栲原町)  <b>【実施主体】</b> ◎・(株)四万川 ・栲原町	販売額 1,458万 円 (H30)	R2	1,600万円	1,429万円	B	<b>1 品質の向上と出荷体制の強化</b> ・熟成肉の製造 ・生産の維持 ・孵化率の向上 ・加工施設整備の検討 ・HACCP研修の受講  <b>2 販路開拓</b> ・高知県産品商談会の出展 ・新商品の開発検討 ・商品パッケージ・リーフレットのリニューアルの検討 ・HPのリニューアルについての検討 ・新商品開発の検討・販売開始 ・営業人材の雇用検討 ・新商品の検討 ・新商品の販売開始 ・業務筋への営業強化  <b>3 キジ肉の消費向上</b> ・情報発信のスキルアップ ・HPやSNSでの情報発信 ・商品パッケージ・リーフレットを活用した営業強化	<b>1 品質の向上と出荷体制の強化</b> ・中山間補助金による新鶏舎建設等 キジ生産施設整備及びパンフレット作成 交付決定R4.5.12 (事業費：21,399千円 県補助金：9,727千円) ・産振補助金による新加工施設建設 栲原町産キジ肉の加工施設等整備 交付決定R4.6.27 (事業費：116,025千円 県補助金：48,615千円) 補助金の内容の変更承認R4.8.1 (事業費：127,011千円 県補助金：48,615千円)  <b>2 販路開拓</b> ・営業人材募集活動（高知暮らしフェアなどでのチラシ配布） ・農業などの複合経営を提案するプランを作成中 ・中山間AD派遣 <b>【第一回 4月14日】</b> キジ商品の販売戦略・ターゲットコンセプト、販促物のデザインについての助言・指導 <b>【第二回 6月14日】</b> 土産物としてのキジ商品の商品開発の方向や販売戦略等についての助言・指導 ・販路拡大のためのパウチ新商品開発 <b>【5月12日】第一弾試食会（タレ、塩、薫焼き、西京みそ）</b> <b>【6月20日】第二弾試食会（タレ、薫焼き）</b> ・栲原町出身の有名ホテルシェフ監修の新商品を井上ワイナリーと共同開発中 (町内飲食店にて関係者による試食会実施)  <b>3 キジ肉の消費向上</b> ・ゆすはらフェアへの出店（R4.10.1、2） ・第9回龍馬脱藩マラソンへの出店（R4.10.9）	※キジ肉の販売が冬期間に集中するため現時点での評価はしない	ー	<b>(成果)</b> ・新鶏舎施設及び新加工施設の補助事業採択 ・中山間アドバイザーによる新商品について2商品開発見込  <b>(課題)</b> ・営業専任の担当者不在 ・新たなキジの飼育者の確保 ・試作品としては冷凍商品になっているため、常温商品の開発検討が必要  <b>(今後の方向性)</b> ・営業人材の募集活動の実施 ・キジ生産者の確保に向けて町と連携して複合経営プランの作成 ・中山間アドバイザーの販売戦略など助言指導内容の実行 ・R5年1月に先進地視察（(株)野乃鳥）の実施を調整中 ・ツアー観光客向けの弁当の製作を予定 ・3月に県内キジ生産団体と共同できじ祭りの実施	<b>1 品質の向上と出荷体制の強化</b> ・熟成肉の製造 ・生産の維持 ・孵化率の向上 ・新加工施設のHACCP取得  <b>2 販路開拓</b> ・高知県産品商談会の出展 ・新商品の開発検討 ・商品パッケージ・リーフレットのリニューアルの検討 ・HPのリニューアルについての検討 ・新商品開発の検討・販売開始 ・営業人材の雇用検討 ・新商品の検討 ・新商品の販売開始 ・業務筋への営業強化  <b>3 キジ肉の消費向上</b> ・情報発信のスキルアップ ・HPやSNSでの情報発信 ・商品パッケージ・リーフレットを活用した営業強化 ・各種イベントでの販売活動
			R3	1,600万円	1,248万円	C						
			R4	1,613万円								
			R5	1,785万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
農業	<b>4 栲原産肉用牛の生産 拡大による地域産業の 活性化</b> (栲原町)  <b>【実施主体】</b> ◎・(一社)津野山畜 産公社 ・栲原町	販売額 1.3億円 (H30)	R2	0.9億	0.85億円	B	1 組織体制の強化 ・インターンシップの受け入れ ・複合経営モデルの提示による移住者の確保推進 ・経営管理  2 栲原町産牛肉の認知度向上 ・学校給食の提供、産業の教育(食育) ・ふるさと納税返礼品としての提供 ・夏山冬里方式のPR	1 組織体制の強化 ・月1回のコンサルを入れた経営会議を開催  2 栲原町産牛肉の認知度向上 ・まるかじりまつり実施 R4.7.24 ・ワインまつりでの肉の提供 R4.10.15 ・高知家プロモーションin関西 プレス発表会への肉の提供 R4.11.9	102,000千円(11月末時点)  ・R4目標達成率:118% ・対前年同期比:-%	S	(成果) ・町内向けイベントとして実施。約100名の来場者があった。 ・インターンシップの申し込みがあり、9月に実施予定。  (課題) ・飼料の高騰 ・堆肥の処分方法 ・担い手の確保  (今後の方向性) ・コロナの感染拡大等があり、実施できるかの判断が難しく大学等への周知ができていない。今後周知方法等検討を行うようにする。 ・移住促進フェアなどで複合経営プランを用いた生産者の募集を行う ・夏山冬里方式のPRとともに放牧地の再検討を行い、飼料高騰に対応する。	1 組織体制の強化 ・インターンシップの受け入れ ・複合経営モデルの提示による移住者の確保推進 ・経営管理  2 栲原町産牛肉の認知度向上 ・学校給食の提供、産業の教育(食育) ・ふるさと納税返礼品としての提供 ・夏山冬里方式のPR
			R3	1.6億円	1.5億円	B						
			R4	1.3億円								
			R5	1.9億円								
		出荷頭数 92頭 (H30)	R2	92頭	113頭	S	1 飼育頭数の増加 ・計画的な増頭(種付け作業、繁殖牛素牛の導入、肥育牛の出荷等)	1 飼育頭数の増加 ・繁殖牛導入6頭 ・肥育牛導入11頭 ・濃厚飼料に乳酸菌混ぜて給与(吸収がよくなり、飼料の低減) ・種付け、受精回数157回	104頭(11月末時点)  ・R4目標達成率:128% ・対前年同期比:-%	S	(成果) ・繁殖牛は計画的に導入できている。 ・上物率85%(11月末)  (課題) ・種付けはおこなっているが受胎率は伸びていない。 ・受胎率が一度上昇していたが、現在また下がっている。  (今後の方向性) ・受胎率の維持・向上 受胎率をあげるため牛の観察、床の管理、繁殖牛のボディコントロールや血液検査等を行うなど原因を把握し改善を検討する。	1 飼育頭数の増加 ・計画的な増頭(種付け作業、繁殖牛素牛の導入、肥育牛の出荷等)
			R3	166頭	146頭	B						
			R4	121頭								
			R5	186頭								



分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>5つの茶販売戦略</b> (津野町) 【実施主体】 ◎・JA高知県(高西地区) ・津野町	茶製品販売額 3,200万円 (H30)	R2	2,400万円	1,274万円	D	1 販売体制の強化 ・新たな販路開拓とプロモーション活動 ・つの茶の認知度の向上と販促強化 2 品質管理 ・茶工場の運用とクリーンルームの活用 3 生産の維持 ・津野町茶業振興計画(仮称)の策定	1 販売体制の強化 ・新茶まつり開催(5月) ・首都圏飲食業者に向けて津野山茶プレゼン及びアンケート実施((株)グローバルフーズ) ・地元小学生へ茶の生産・加工・販売の学習(5月～) ・梶原高校農業コースでの出前授業実施(6月) ・ツノチャ・マルシェの開催に向けて出店者募集(6～7月) ・ツノチャ・マルシェの開催(10月) ・商談会への参加(3回:まると高知商談会、高知県産品商談会、関西版高知県産品商談会) ・TV、SNS、HP等による情報発信の強化 2 品質管理 ・茶農家への適時摘裁の指導 ・茶工場のGAP(生産工程管理)の遵守と農家指導 ・クリーンルームの新県版HACCP第二ステージ認証に向けた取り組み(一般衛生管理研修、書類作成講習) 3 生産の維持 ・放棄茶園の調査 ・放棄茶園の整備(元地域おこし協力隊) ・地域おこし協力隊の募集(9月～、1名応募あり) ・津野町茶業振興計画(仮称)策定に向けた取組 10月:策定会議(全体会)の実施 11～12月:分科会(生産部・販売流通部・文化部)の実施 ※3月末、計画策定予定	1,158万円(11月末時点) ・R4目標達成率:54% ・対前年同期比:106%	D	(成果) ・3年ぶりに津野町で開催したツノチャ・マルシェでは、約2,000名の来場者に恵まれた。 ・茶業振興計画策定に向けて、生産者や販売事業者など茶業関係者によるワークショップを実施し、各分野の現状や課題、今後の取り組み方針について話し合う機会を設けた。 (課題) ・茶製品の販路拡大 ・生産者の高齢化による生産量の確保 (今後の方向性) ・津野町茶業振興計画が実効性の高い計画となるよう、茶業関係者が一丸となり取り組んでいく。 ・販路拡大のため、引き続き積極的な商談会の参加やイベント出店等に取り組んでいく。	1 販売体制の強化 ・新たな販路開拓とプロモーション活動 ・つの茶の認知度の向上と販促強化 2 品質管理 ・茶工場の運用とクリーンルームの活用 3 生産の維持 ・放棄茶園の整備 ・津野町茶業振興計画の取り組み
			R3	2,800万円	1,892万円	D						
			R4	3,200万円								
			R5	4,000万円								
		荒茶販売額 4,039万円 (H30)	R2	4,318万円	2,524万円	D						
			R3	4,559万円	2,862万円	D						
			R4	4,800万円	3,166万円	D						
			R5	5,000万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>6 四万十のうまい栗ク</b> <b>ラスタープロジェクト</b> (四万十町)  <b>【実施主体】</b> ◎・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会 ・(株)無手無冠 ・清流栗庵  ※地域産業クラスター関連(四万十のうまい栗ク ラスタープロジェクト)	JA栗出荷量(西土佐・大正・十和)  26t (R元)	R2	32t	29.0t	B	<b>1 生産量の増大</b> ・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会による新改植の推進 ・JA及び普及所の講習会や個別現地巡回指導による低樹高剪定技術の普及  <b>2 施設機械整備</b> ・四万十ドラマの地栗工場及びしまん 新一次産業(株)のペースト工場の安定稼働  <b>3 ブランド化</b> ・新商品の開発及び販路拡大	<b>1 生産量の増大</b> ・個別聞き取りによる営農意向調査(2回、のべ19戸) ・個別巡回による栽培管理指導(2回、のべ19戸)  <b>2 施設機械整備</b> ・産業振興アドバイザー派遣(3回)6/20~6/21、8/4、9/8 ・工場内の動線や資機材の配置場所を修正指導等  <b>3 ブランド化</b> ・産業振興アドバイザー派遣(3回)6/20~6/21、8/4、9/8 既存商品の横展開によるバレンタイン向け商品開発、廃棄していた卵白を有効利用するための商品開発 ・新商品開発(3品)	26.6t	・R4目標達成率:60% ・対前年比:90%	<b>D</b>  <b>(成果)</b> ・これまでの聞き取りはJA出荷者が対象で、新改植の意向を示す農家はいなかった。 ・低樹高剪定は、特選栗ではできていない。 ・四万十ドラマ地栗工場の課題が抽出でき、機材の配置変更を行った。  <b>(課題)</b> ・特選栗以外での低樹高剪定の実施 ・新たな担い手への新改植の推進 ・バレンタインやお中元時期の売上増  <b>(今後の方向性)</b> ・意向調査の継続実施。 ・剪定技術指導の実施。 ・アドバイザーによる四万十ドラマ(株)機材の運用状況を検証。 ・アドバイザー提案のレシピによる商品の試作と規格の検討。	<b>1 生産量の増大</b> ・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会による新改植の推進 ・JA及び普及所の講習会や個別巡回指導による低樹高剪定技術の普及 ・四万十の芋プロジェクト協議会による研修会等による芋の栽培技術の高位平準化 ・普及所による芋の病害虫対策の周知及び有機農業に関する情報提供  <b>2 施設機械整備</b> ・四万十ドラマの地栗工場及びしまん 新一次産業(株)のペースト工場の安定稼働  <b>3 ブランド化</b> ・新商品の開発及び販路拡大
			R3	38t	29.5t	C						
			R4	44t								
			R5	50t								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>7 四万十町畑作振興プロジェクト</b> (四万十町)  <b>【実施主体】</b> ◎・四万十野菜(同) ・(株)ハマヤ	(1) 四万十野菜(同)売上高	R2	9,000万円	11,628万円	S	県計画推進課、普及所、四万十町、農政局による実行支援チーム会の実施  1 こだわり野菜の生産安定 ・四万十野菜(同)による有機現地検討会等の栽培管理指導の実施 ・普及所による緑肥実証ほ調査及び土壌診断による土づくり支援 ・四万十野菜(同)によるJGAP農場点検  2 6次産業化の推進 ・県の産業振興アドバイザー活用による商品化 ・県計画推進課の産振補助金申請手続き支援による加工施設の整備 ・四万十野菜(同)による衛生管理の強化  3 外商活動の強化 ・四万十野菜(同)及び(株)ハマヤの商談会等への参加、営業活動	実行支援チーム会の実施(8回)  1 こだわり野菜の生産安定 ・有機現地検討会(2回) ・カラシナ実証ほ調査(3回) ・土壌診断に基づく施肥指導(2回)  2 6次産業化の推進 ・産業振興アドバイザー(3回) ・生姜香辛料「土佐七味」の商品化等 ・コーディネルの試作品 ・事業者と地域本部等との打ち合わせ(随時)  3 外商活動の強化 ・商談活動(6回)	7,806万円(10月末時点)	S	(成果) ・有機ショウガ現地検討会により情報交換・共有ができた。 ・カラシナ実証ほは雑草抑制が期待以上で土壌診断結果も良好であった。 ・作付はおおむね予定通り。 ・「土佐七味」は商品化に向けて、パッケージが完成。年内に試作品完成見込み。 ・「コーディアル」は商談相手の提案を活かした「セカンドライン」の試作品が完成。 ・新事業チャレンジ支援事業活用により年内に加工施設が整備される見込み。 ・青果はまるごと高知の陳列スペースを確保できた。  (課題) ・低温期の適切な栽培管理による生産性の向上  (今後の方向性) ・作物にあった適切な栽培管理の実施。 雇用については、機械導入による省力化が実現したため、現状の人数で充足している。今後変動する事業の規模と見合わせて必要な人員の確保に取り組む。	県計画推進課、普及所、四万十町、農政局による実行支援チーム会の実施  1 こだわり野菜の生産安定 ・四万十野菜(同)による有機現地検討会等の栽培管理指導の実施 ・普及所による土壌診断に基づく土づくり支援 ・四万十野菜(同)によるJGAP農場点検  2 6次産業化の推進 ・県の産業振興アドバイザー活用による商品のブラッシュアップ ・四万十野菜(同)による衛生管理の強化  3 外商活動の強化 ・四万十野菜(同)及び(株)ハマヤの商談会等への参加、営業活動
			R3	9,500万円	11,738万円	S						
			R4	10,500万円								
			R5	1.2億円								
			(2) 四万十野菜(同)雇 用者数	R2	8人	7人						
		R3		9人	7人	C						
		R4		7人								
		R5		12人								
		9人 (H28~R元累計)							7人(11月末時点)	A		

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>8 四万十のうまい豚クワスタープロジェクト</b> (四万十町)  <b>【実施主体】</b> ◎・四万十ポークブランド推進協議会 ・(農)平野協同畜産 ・(有)渡辺畜産 ・山中畜産 ・(農)デュロックファーム	(農)四国デュロックファーム 加工品売上高 9,202万円 (H30)	R2	1.0億	1.15億	S	<b>1 ブランド化の推進</b> ○四万十ポークブランド推進協議会 ・事業計画に係る打ち合わせ(通年) ・通常総会の開催  <b>2 商品開発と販路開拓</b> ○(農)四国デュロックファーム ・商品開発・販路開拓・広報、営業活動の実施(通年)  ○(農)平野共同畜産 ・六次化の検討(通年)	<b>1 ブランド化の推進</b> ○四万十ポークブランド推進協議会 ・総会開催(5/31) 畜産クラスター計画更新→承認 ・幹事会(10/13) ブランド化の方向性・イメージ共有のための意見交換  <b>2 商品開発と販路開拓</b> ○(農)四国デュロックファーム ・商談会等：ファベックス東京他30件(4月～9月) ・農山漁村発イノベーションサポート事業の活用(農産物マーケティング戦略課)  ○(農)平野共同畜産 ・農山漁村発イノベーションサポート事業の活用(農産物マーケティング戦略課) ・精肉加工場の整備予定地の確保 →産業振興アドバイザー(課題解決型)を活用し、自社商品のブランディング等に取り組む	5,295万円(9月末時点)  ・R4目標達成率：88.2% ・対前年同期比：96.8%	<b>B</b>	(成果) ○(農)平野協同畜産 店舗を併設した精肉加工場整備に着手  (課題) ○四万十ポークブランド推進協議会 R5以降に町補助金「四万十ポークブランド推進事業費補助金」で実施する事業内容の検討、ブランド化の方向性の共有など  (今後の方向性) ○四万十ポークブランド推進協議会 ブランド化の推進に向けた専門家の導入の検討 ○(農)平野共同畜産 6次化事業に対する産振アドバイザーの導入、各種支援策等の情報提供	<b>1 ブランド化の推進</b> ○四万十ポークブランド推進協議会 ・地域団体商標の検討 ・販促物を活用したPR活動  <b>2 商品開発と販路開拓</b> ○(農)四国デュロックファーム、平野協同畜産 ・商品開発・販路開拓・広報、営業活動の実施(通年)
			R3	1.1億	1.25億	S						
			R4	1.2億								
			R5	1.2億								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
	(農)平野協同畜産 母豚数 477頭 (H30)		R2	500頭	465頭	B	<p>3 生産基盤の強化</p> <p>○(農)四国デロックファーム ・畜舎(4棟)の建設</p> <p>○(有)渡辺畜産 ・ウインドレス繁殖豚舎の建設</p> <p>○(農)平野協同畜産 ・農場HACCPに基づく衛生管理の徹底(通年)</p> <p>○4農場 ・飼養衛生管理基準の徹底(通年) ・まん性疾病の清浄化(通年) ・豚熱ワクチン接種(通年) ・環境対策事業の実施と効果検証(通年)</p>	<p>3 生産基盤の強化</p> <p>○(農)四国デロックファーム ・畜産クラスター施設整備事業の活用(R3→R4繰越)(国・畜産振興課) ・事業打合せ(4/11) ・畜舎完了検査(8/31)→11月末より運用</p> <p>○(有)渡辺畜産 ・畜産クラスター施設整備事業の活用(R4)(国・畜産振興課) ・事業打合せ(6/20) ・畜舎入札(9/13)</p> <p>○(農)平野協同畜産 ・チーム会・内部検証会(6/10、16)</p> <p>○4農場 ・飼養衛生管理基準の徹底 ・まん性疾病の清浄化(通年) →家畜生産農場衛生対策事業の活用(R4)(国・窪川養豚協会) ・環境対策事業の実施と効果検証 →畜産環境対策推進事業の活用(R4)(畜産振興課) →事前臭気測定・臭気マップ作成(7/27、29)</p>	491頭(9月末時点)	B	<p>(成果)</p> <p>○(農)平野共同畜産 畜舎整備事業はH29.6完了、この成果を受け、ほか2農場についてはR3から畜舎整備による増頭に順次取り組んでいる</p> <p>(課題)</p> <p>○(農)平野共同畜産 畜舎整備事業により母豚500頭飼育スペースを確保、ただし母豚更新(月10~30頭程度)時に一定の消毒期間を設けることから、今後も母豚数は460~490頭で推移</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○(農)平野共同畜産 出荷頭数も概ね目標頭数となっており、生産性向上の取組継続により、今後も出荷頭数の維持、目標頭数の達成を目指す、ただし大幅な出荷頭数増を目指すには、増頭の意向を踏まえ、用地確保、畜舎増築等の検討が必要</p>	3 生産基盤の強化
R3			500頭	471頭	B							
R4			500頭									
R5			500頭									
		(農)平野協同畜産 出荷頭数 9,693頭 (H30)		R2	11,000頭	10,724頭			B			
R3				11,000頭	10,759頭	B						
R4				11,000頭								
R5				11,000頭								
								5,431頭(9月末時点)	B	<p>○4農場 繁殖部門の畜舎建設が2農場で進んでいるが、肥育舎の整備は次年度以降の計画であることから、地域での大幅な出荷頭数増はR5以降となる見込み</p>		

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
農業	<b>9 四万十次世代ハウス園芸団地におけるトマトの栽培の経営強化クラスタープロジェクト</b> (四万十町)  <b>【実施主体】</b> ◎・四万十とまと(株) ・(有)四万十みはら菜園 ・(株)ベストグロウ ・(株)四万十あおぞらファーム ・山本商店	売上高 R元 (前年 8月～当年 7月) 5.8億円	R2	5.9億円	5.97億円	A	<b>1 生産の拡大</b> ○病害虫発生調査の実施 ○対策チーム会の開催 ○病害対策講習会の開催 ○病害防除指導 ・トマトのホモブシス茎枯れ病の防除対策の確立 ・パプリカでのIPM技術の定着 ・黄化葉巻病等病害虫対策の徹底  <b>底</b> ○養液分析の実施、栽培管理への助言 ・適正な栽培管理による草勢維持  <b>2 低コスト省力化の推進</b> ○省力化技術の情報収集と実証支援 ・パプリカでのIPM技術の定着  ※ 栽培の一部をトマトからパプリカに品目変更  (令和5園芸年度(令和4年8月～令和5年7月))  <b>3 販路開拓</b>	<b>1 生産の拡大</b> ・病害虫発生調査 (4/21,5/18,6/23,7/12・13,8/30,9/21,10/21,11/16) ・病害虫防除指導 (4/21,5/18,6/23,8/17,9/16・21,10/21,11/16) ・対策チーム会 (6/23,8/17) ・養液分析 (4/13,5/12,6/15,7/14,8/10,9/14,10/12,11/9,12/7)  <b>2 低コスト省力化の推進</b> ・省力化技術 (天敵利用防除等) の実証支援 (6～12月適宜) ・パプリカでのIPM技術の利用(土着天敵を利用した害虫防除)のための土着天敵温存植物の導入 ・新しい害虫トマトキバガの侵入警戒調査の実施 (9月～適宜)  ※令和4年8月から1社で、ハウス面積の約半分をトマトからパプリカに品目を変更。	5.08億円 (R4(令和3年8月～令和4年7月))  ・R4目標達成率：81% ・対前年比：97%	C	<b>(成果)</b> R4園芸年度に実施した病害対策の成果が見られており、栽培担当者の病害対策に対する意識は向上している。前年の作に比べてホモブシス茎枯れ病の発生が抑えられた。  <b>(課題)</b> 令和3年9月の台風によるハウス内の浸水により、病害が多発した。また、害虫が伝染源となるウイルス性の黄化葉巻病が発生した。そのため、栽培中に株を多数除去し、収量が減少した。引き続き、病害虫対策の徹底により、減収を防ぐ必要がある。  <b>(今後の方向性)</b> 適正な病害虫防除や適正な栽培管理による草勢維持により、生産を拡大し、経営を強化する。	<b>1 生産の拡大</b> ○病害虫発生調査の実施 ○対策チーム会の開催 ○病害対策講習会の開催 ○病害防除指導 ・トマトのホモブシス茎枯れ病の防除対策の確立 ・パプリカでのIPM技術の定着 ・黄化葉巻病等病害虫対策の徹底 ○養液分析の実施、栽培管理への助言 ・適正な栽培管理による草勢維持  <b>2 低コスト省力化の推進</b> ○省力化技術の情報収集と実証支援 ・パプリカでのIPM技術の定着  <b>3 販路開拓</b> ・商談会、イベントへの出展等
			R3	6.1億円	5.26億円	B						
			R4	6.3億円 (R3.8～R4.7)								
			R5	6.5億円 (R4.8～R5.7)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
林業	10 「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進 (中土佐町、四万十町)  【実施主体】 ◎・四万十町森林組合 ・須崎地区森林組合 ・四万十町 ・中土佐町 ・地元事業者	集成材工場の売上高2.0億円(H30)	R2	2.0億円	1.9億円	B	1 大正集成材工場の売上拡大 ○展示場を活用した商談会の企画・情報発信	1 大正集成材工場の売上拡大 ○展示場を活用した商談会の企画・情報発信 ・展示場を活用して新商品開発の商談を実施 5社12回(7月～12月:カウネット1回、コク35回、天童木工2回、ミロクテクノロジー2回、良品計画2回)  ○首都圏等での展示商談会をきっかけとした営業展開 ○ネット媒体、DM等による情報発信  ○ECサイトを利用した販売促進  ○経営コンサルタントの助言による事業戦略の実行  ○ネット媒体、DM等による情報発信 ・大阪への営業活動を実施 4回(5月,7月,11月,12月)(大阪府森林組合、大阪市役所、鶴見区プロポーザル等)  ○ネット媒体、DM等による情報発信 ・ネット媒体では四万十ドラマのHPに新たに3～4品掲載依頼、DMを家具メーカー10社に送付するなど、情報発信を継続して実施。  ○ECサイトを利用した販売促進 ・自社のECサイトや専門ブランドの「シマントヒノキファニチャーワークス」から各種商品の情報発信を実施。(楽天、アマゾンに掲載)  ○経営コンサルタントの助言による事業戦略の実行 ・事業戦略実践会議の実施 7回(4.28、5.19、6.22、7.27、8.19、9.5、11.15)	4,875万円(10月末時点)  ・R4目標達成率:49% ・対前年同期比:43%(R3 11,424万円)  ※売上高の比重の高い公共物件の実績が、R5.1～3月に集中する見込みのため、現段階での達成率は伸びていない。	D	(成果) ○ネット媒体では、Instagramの反響が大きく、少額ながら売上に繋がっている。 ○事業戦略実践会議により組合長以下作業員全員がR4事業方針を確認・共有が図れ、毎月PDCAを回す習慣が定着した。  (課題) ○営業担当職員の不足により首都圏での営業活動は困難となっている。 ○ECサイトを利用した販売促進が自社のサイトのみのため進まない。  (今後の方向性) ○Instagramへのアップにより商品の周知を図り、首都圏の顧客とのリモート商談を円滑に進めていく。 ○自社のECサイトばかりでなく、他社のECサイトにも積極的に進出して顧客の反応に応じたサイトにアップデートしていく。	1 大正集成材工場の売上拡大 ○展示場を活用した商談会の企画・情報発信  ○首都圏等での展示商談会をきっかけとした営業展開  ○ネット媒体、DM等による情報発信  ○ECサイトを利用した販売促進  ○経営コンサルタントの助言による事業戦略の実行
			R3	1.7億円	1.6億円	B						
			R4	1.7億円								
			R5	3.0億円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
林業	11 「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進 (梶原町、津野町)  【実施主体】 ◎JA高知県(高西地区)	乾燥椎茸の販売量 4.4 t (H30)	R2	4t	2,3t	D	1 生産の担い手対策 ・低温乾燥方法を主軸とした技術研修会の実施 ・先進地視察 ・ほだ場の巡回	1 生産の担い手対策  2 商品力の強化と直販ルートの開拓 ・乾燥しいたけの品評会について、須崎林業事務所と調整中。	乾燥椎茸の販売量 0.9t(7月末時点) ※収穫時期が秋～春に集中するため評価しない	—	(成果) (課題) ・販売量目標達成に向けて積極的に研修会なども実施しなければいけないが、現状何も動きがない。  (今後の方向性) ・チーム会を実施するなど地域APとしての全体的な見直しをする。	1 生産の担い手対策 ・低温乾燥方法を主軸とした技術研修会の実施 ・先進地視察 ・ほだ場の巡回  2 商品力の強化と直販ルートの開拓 ・消費宣伝活動  3 シイタケ経営基盤の整備 ・ほだ場巡回・調査
			R3	4t	1.9t	D	2 商品力の強化と直販ルートの開拓 ・消費宣伝活動	3 シイタケ経営基盤の整備				
			R4	4t			3 シイタケ経営基盤の整備 ・ほだ場巡回・調査					
			R5	11t								
林業	12 循環型社会を推進するための梶原町森林資源の有効活用 (梶原町)  【実施主体】 ◎梶原町森林組合 ◎ゆすはらペレット㈱ ・梶原町	認証材の販売量 998m <sup>3</sup> (H30)	R2	1,050m <sup>3</sup>	986m <sup>3</sup>	B	1 FSC認証材製材品の販売強化 ・土佐材流通推進協議会が開催する設計士、工務店を対象とした商談会(大阪等)への参加	1 FSC認証材製材品の販売強化 ・県外関係者を招いた産地商談会の開催(大阪 8回 71人、鹿児島 1回 2人、京都 1回 7人、千葉 1回 1人) ※上記のうち木材協会が主催したツアーでは大阪(1回)の工務店・問屋 3 0 名が訪問	641m <sup>3</sup> (9月末時点)  ・R4目標達成率: 111% ・前年同期比 123% (R3: 523m <sup>3</sup> )	S	(成果) ・FSC製品は邸別の販売が順調で安定的に出荷できている。  (課題) ・重油代、電気代の上昇による製造コストの上昇 ・公共物件等でJAS製品(機械化等級区分)の発注があれば、迅速に対応できる体制の整備  (今後の方向性) ・重油代、電気代のコストの上昇により、製品価格の9月に単価アップを実施したが(5,000円~10,000円)、来年1月にも(2,000円~3,000円)のアップと申し入れる。 ・JAS製品対応の人員配置の検討	1 FSC認証材製材品の販売強化 ・土佐材流通推進協議会が開催する設計士、工務店を対象とした商談会(大阪等)への参加  ・県外の工務店・設計士・施主候補を招いた産地商談会の開催  ・県内外の木材問屋、工務店への営業活動  ・グレーディングマシンを活用したJAS製品の販売
			R3	1,100m <sup>3</sup>	1,137m <sup>3</sup>	A	・県外関係者を招いた産地商談会の開催	・木材問屋、工務店への営業活動				
			R4	1,150m <sup>3</sup>			・グレーディングマシンを活用したJAS製品の販売	・グレーディングマシンを活用した製材品の販売JAS製品の販売 販売件数 1件、7m <sup>3</sup> 付加価値は柱で5,000円/m <sup>3</sup> ,平角で10,000円/m <sup>3</sup> ※JAS機械化等級区分での販売はなし				
			R5	1,200m <sup>3</sup>								
		ペレットの生産量 1,276t (H30)	R2	1,400t	1,347t	B	2 木質ペレットの販路拡大 ・木質ペレットの販路の開拓と、既存販売先への取引継続の営業活動	2 木質ペレットの販路拡大 ・ストーブやボイラーを導入・更新する事業体に対してペレットの営業を実施	727 t (9月末時点)  ・R4目標達成率: 91% ・前年同期比 108% (R3: 675 t)	B	(成果) ・重油の高騰により、園芸ボイラー用を中心に木質ペレットの注文が好調で、木質ペレットは安定的に生産されている。  (課題) ・重油代、電気代の高騰による生産コストの上昇 ・燃焼灰を大量に消費する大口の販売先の確保が必要  (今後の方向性) ・重油代、電気代のコストの上昇により、来年度、販売単価の見直し(値上げ)を検討	2 木質ペレットの販路拡大 ・木質ペレットの販路の開拓と、既存販売先への取引継続の営業活動  ・土壌改良用としての燃焼灰の販路開拓  ・製品価格の単価アップの交渉(製造コストの上昇のため)
			R3	1,500t	1,456t	B	・土壌改良用としての燃焼灰の販売	・土壌改良用としての燃焼灰の販売 ・燃焼灰を土壌改良用として袋詰めし、県外にサンプル出荷				
			R4	1,600t								
			R5	1,700t								



分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
林業	<b>13 津野町森林・林業再生プロジェクト</b> (津野町)  <b>【実施主体】</b> ◎・津野町森林組合 ◎・(株)中成 ・津野町	山元貯木場木材取扱量 25,358m <sup>3</sup> (H30)	R2	27,000 m <sup>3</sup>	19,049 m <sup>3</sup>	C	1 原木取扱量の増 ・自伐林家・林業事業者への出荷の働きかけ  ・自伐林家への市場の情報提供及び採材方法の情報提供  ・自伐林家への支援（作業道の開設）  ・津野町森林組合 高性能林業機械の導入	1 原木取扱量の増 ・月2回の市の開催後、自伐林家・林業事業者に対して市場の価格及び採材方法の情報提供を行い、積極的な出荷の働きかけを実施  ・自伐林家が作業道開設に使用する林業機械のレンタル費用を支援 （バックホウ1台、林内作業車1台）  ・津野町森林組合が大型フォワーダを導入 1台（11月） 車両系システムでの伐採木の運搬に活用	17,798m <sup>3</sup> (9月末時点)  ・R4目標達成率：123% ・前年同期比：119% (R3：14,964m <sup>3</sup> )	S	(成果) ・本年度は津野町森林組合の皆伐材（国有林の請負）の出荷量が多く、取扱量が多くなっている。 ・原木、チップとも安定して出荷できている。  (課題) ・昨年のウッドショックにより材価が急高騰したが、今年度に入り、ヒノキの材価が下降しており、出材への影響が懸念される。  (今後の方向性) ・原木：引き続き、出荷者へ情報提供と出材の働きかけを行う。 ・チップ：大規模バイオマス発電用等燃料用需要への安定供給を継続して実施	1 原木取扱量の増 ・自伐林家・林業事業者への市場の情報提供及び採材方法の情報提供などによる出荷の働きかけ  ・自伐林家への支援（作業道の開設）  ・津野町森林組合 高性能林業機械を活用した車両系システムでの生産性の向上  2 チップの安定供給 ・バイオマス発電用チップ、製紙用チップの出荷先への安定した供給体制の確保（原木の確保、チップ一等の機械の運転）
			R3	28,000 m <sup>3</sup>	30,272 m <sup>3</sup>	A						
			R4	29,000 m <sup>3</sup>								
			R5	30,000 m <sup>3</sup>								
水産業	<b>14 浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大</b> (須崎市)  ◎・土佐鯛工房 ◎・(株)小島水産 ◎・乙女会 ◎・(株)大東冷蔵 ・高知県漁協深浦支所	(1)海援鯛出荷尾数 (2)乙女鯛出荷尾数	R2	7万尾 (海援鯛) 22.5万尾 (乙女鯛)	3.9万尾 (海援鯛) 17.0万尾 (乙女鯛)	D	1 品質の維持・向上と生産量の確保 ・後継者及び生産者の確保  2 販路開拓と出荷体制の強化 ・既存販路の継続及び新たな販路の拡大  3 加工体制の強化・新商品の開発 ・加工能力の安定、拡充に向けた人役確保 ・新商品の開発	○海援鯛関係 ・新規就業者の生産状況確認。年末に生産魚が出荷サイズとなる見込み。 ・産地見学会等による県外飲食店関係者への営業（8,9月）  ○乙女鯛関係 ・ふるさと納税返礼品として取扱いを継続中。 ・新商品について、取引先からのニーズに応じて対応する予定であるが、現状では相談はない。 ・(株)小島水産の社長交代による、乙女鯛の販売業務引継→従前とおり、乙女鯛の販売方針は変わらないことを確認。 ・加工事業における生産能力を安定、拡充させるために従業員を増員。（前年度から3名増（同社事業年度比））	2.7万尾（海援鯛） (R4.11月末時点) 6.6万尾（乙女鯛） (R4.11月末時点)  ・R4目標達成率： ○海援隊 45% ○乙女鯛 36% ・対前年同期比： ○海援鯛 126% ○乙女鯛 95%	D	(成果) ○海援隊関係 ・新規就業者の参入で海援鯛がR4で1万尾、R5で2万尾増産される見込み。 ・飲食店関係者向けに産地見学会を実施。 ○乙女鯛関係 ・R3年度に改修した加工施設の能力を生かすための従業員の増員  (課題) ・生産魚の数量確保に向けた生産者数の維持  (今後の方向性) ブランドとしての知名度向上と品質の保持	1 品質の維持・向上と生産量の確保 ・後継者及び生産者の確保  2 販路開拓と出荷体制の強化 ・既存販路の継続及び新たな販路の拡大  3 加工体制の強化・新商品の開発 ・加工能力の安定、拡充に向けた人役確保 ・新商品の開発
			R3	8万尾 (海援鯛) 25万尾 (乙女鯛)	3.4万尾 (海援鯛) 11.9万尾 (乙女鯛)	D						
			R4	9万尾 (海援鯛) 27.5万尾 (乙女鯛)								
			R5	10万尾 (海援隊) 30万尾 (乙女鯛)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
水産業	15 須崎市養殖漁業等のさらなる振興 (須崎市)  ◎・野見漁業協同組合 ・(株)須崎水産加工 ・須崎市	新たな加工施設による売上高 (1~12月) - (R2)	R2	-	-	-	1 加工施設整備及び運営体制の強化 ・事業戦略の策定、実施設計 ・生産、運営体制の構築・体制強化	1 加工施設整備及び運営体制の強化 ・産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）を活用し、加工施設建設に係る実施計画を策定中 ・水産業競争力強化支援事業費補助金及び産業振興推進総合支援事業費補助金（特別承認事業）の活用に向けた資料を作成中。 ・加工施設の稼働における収支計画を検討するための定例会を開催（8回/4~11月）。 ・営業に特化した部会の開催（10回/7~11月）。 ・事業費の増大や加工原魚確保の不透明さを考慮したうえで、漁協理事会（11月）及び臨時総会（12月）で加工場建設の是非について検討。  2 販路の拡大 ・ふるさと納税やECサイトを通じた販売の実施	0万円（R4.6末時点）  ・R4目標達成率：-% ・対前年同期比：-%	-	(成果)  (課題)  (今後の方向性) ・漁協理事会及び臨時総会で加工場建設を中止とする方針が決定。 ・加工場建設に係る交付済み補助金の返還と実施途中の事業における中止又は変更手続きの実施。	
			R3	-	-	-	2 販路の拡大 ・既存販路の継続及び新たな販路の拡大					
			R4	-								
			R5	17,000千円 (R5.11竣工予定)								
水産業	16 アメゴ養殖事業の再生拡大 (梶原町)  【実施主体】 ◎・集落活動センターおちめん ・梶原町	売上高 0万円 (R元)	R2	0万円	0万円	-	1 生産体制の確立・強化 ・アメゴ養殖事業部会の開催 ・田野々養殖池の増設検討・開始 ・中山間デジタル化補助金による養殖事業高率化の取り組み	1 生産体制の確立・強化 ・中山間デジタル化推進補助金申請 第一回デジタル化打事業合せR4.6.24 越知面のアメゴ養殖事業のデジタル化（水温水流監視システム構築他） 交付決定R4.8.4（県補助金：7,200千円 定額） ・月一回アメゴ養殖事業部会の実施（情報共有、進捗管理） ・水温などデータ取りをしながら、生産者としての経験を積み、月一回のアメゴ養殖事業部会でも意見を出している。 ・デジタル化に向けた関係者会議の開催（2回） R4.9.21、R4.10.19  2 担い手への養殖事業の伝承 ・水温などデータ取りをしながら、生産者としての経験を積み、月一回のアメゴ養殖事業部会でも意見を出している。（再掲）  3 販路の拡大 ・四万十生産(有)とアメゴ商品化についての協議を実施 R4.12.14	0万円（11月末時点）  ・R4目標達成率：0% ・対前年同期比：0%	-	(成果) ・月一回のアメゴ養殖事業部会では、デジタル化事業の進捗等情報共有や進捗管理を行い、部会として進む方向を統一しようとしている。  (課題) ・孵化小屋新設などからかかる経費を考慮した販売価格の設定、販売計画の策定が必要 ・長年の経験と勘で行われたアメゴ養殖事業に関する技術やノウハウのマニュアル化  (今後の方向性) ・デジタル事業の進捗の管理と、今後の販路の開拓や加工品の開発の検討をしていく。 ・来年度の販路開拓に向けて情報収集と営業を行って行く。	1 生産体制の確立・強化 ・アメゴ養殖事業部会の開催 ・田野々養殖池の増設検討・開始 ・中山間デジタル化補助金による養殖事業高率化の取り組み  2 担い手への養殖事業の伝承 ・担い手によるアメゴの育成 ・孵化作業 ・稚魚の育成  3 販路の拡大 ・販路の開拓（民宿や飲食店等への営業） ・加工品の開発・検討
			R3	0万円	0万円	-						
			R4	0万円								
			R5	400万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>17 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大</b> (須崎市)  【実施主体】 ◎・(株)アースエイド	売上高 出発点： H30 5,418万円  単位：万円	R2	6,000万円	13,539万円	S	1 生産の拡大 ・作付け面積の拡大・栽培方法及び商品製造作業の効率化  2 商品の高付加価値化 ・新商品開発及び広報戦略の策定・実施 ・葉にんにくの機能性の調査  3 インターネット等を活用した直接販売の強化 ・SNS等を活用した情報発信及び個人顧客の獲得	1 生産の拡大 ・作付け面積の拡大・栽培方法及び商品製造作業の効率化 ・ふるさと納税等EC販売の増加による事務作業増加について、産業振興アドバイザー制度を活用し事務作業の効率化を実施  2 商品の高付加価値化 ・新商品開発及び広報戦略の策定・実施 ・葉にんにくの機能性の調査 ・高知家のうまいもの大賞2023 最優秀賞の受賞  3 インターネット等を活用した直接販売の強化 ・SNS等を活用した情報発信及び個人顧客の獲得	719万円(6月末時点)  ※葉ニンニク収穫後に加工販売が中心のため現時点で評価しない  ・対前年同期比：84%	(成果) ・R4新規取り扱い4社 ・自社HPでの売り上げ40%増  (課題) ・商品PR等広報・営業へのマンパワーが不足している。  (今後の方向性) ・繁忙期となる12月に向けて商品PRや一昨年好調であった他社商品とのセット販売について検討を行う。 ・マンパワーが不足していた点について、産業振興アドバイザー制度を活用し効率化によって新たに生み出された時間を有効に活用していく。 ・かつおに合う葉にんにくめだが高知家のうまいもの大賞2023最優秀賞を受賞した。受賞を受け商談会への参加等から商談へつながったものもあり、今後一層の販路開拓へつなげたい。	1 生産の拡大 ・作付け面積の拡大・栽培方法及び商品製造作業の効率化  2 商品の高付加価値化 ・新商品開発及び広報戦略の策定・実施 ・葉にんにくの機能性の調査 ・高知家のうまいもの大賞2023 最優秀賞受賞を活用した営業の実施  3 インターネット等を活用した直接販売の強化 ・SNS等を活用した情報発信及び個人顧客の獲得	
			R3	7,000万円	4,116万円	D						
			R4	7,500万円								
			R5	8,000万円								
商工業	<b>18 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進</b> (中土佐町)  【実施主体】 ・企画・ど礼もん企業組合 ・中土佐町	商品売上高 3,269万円 (H30)	R2	3,300万円	2,460万円	C	1 スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓 ○販路開拓・拡大 ・ネットショップの改善 ・ホームページの改善 ・飲食店への営業 ・地元への販売機会の創出 ・事業計画検討(産振アドバイザー)  2 中土佐町の食文化を使った商品開発と販路開拓 ○販路開拓・拡大 ・ネットショップの改善 ・ホームページの改善 ・飲食店への営業 ・地元への販売機会の創出  ○中土佐町のふるさと納税活性化事業 ・情報発信の強化 ・企画の立案・実施	1 スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓 ○販路開拓・拡大 ・カツオの価格が安い時の販路開拓の試みとして、品質の良い鰹を選別し中土佐町役場に販売(5/10)。 ・リニューアルした桂浜のテナントとの商談(打ち合わせ4回、視察1回、10/21～納品開始) ・視察対応(中土佐町食のつながり支援事業含む)(3回) どればー高知(8/2)、ロケーションサーチ(9/13)、ゆるり(10/18) ・事業計画進捗状況確認(産振AD活用)(12/7) ○ブランド(久礼の鰹)の再構築 ・Web勉強会等(8回) ・地域資源である鰹の更なるブランド価値の再発見及び再構築について、「久礼の鰹」の大きな方向性を整理  2 中土佐町の食文化を使った商品開発と販路開拓 ○販路開拓・拡大 ・新メニュー「豊漁かつおどんぶり」を開発し、かつお祭りと合わせて開催された「久礼大正町市場かつお祭」で市場食堂にて販売(5/13-15、158食)。 ・新メニュー「かつおユッケ丼」を「水曜どうでしょう」のイベント企画に合わせて開発、期間限定で提供(10/4-10)。好評のため正式販売開始。(10/11～)  ○中土佐町のふるさと納税活性化事業 ・初鰹祈禱祭の実施(八幡様)(4/18) ・ボルシエモメンタム企画打ち合わせ(2回)	商品売上高：2,023万円(11月末時点)  ・R4目標達成率：101% ・対前年同期比：96%	(成果) ・新規取引先の開拓(10/21～) ・販売戦略の見直しによる冷凍販売を中心とした売上の増加 ・大正町市場と連携したイベント企画を通じた新たなメニューの定番化  (課題) ・人材の確保と育成 ・製造コストに見合う販売価格の検討  (今後の方向性) ・定期的な事業整理と価格の見直し ・ブランドの再構築にかかる行動計画の検討	1 スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓 ・販路開拓・拡大 ネット販売の強化や飲食店への営業など  ・ブランド(久礼の鰹)の再構築 事業計画の作成等  2 中土佐町の食文化を使った商品開発 ・販路開拓・拡大 ネット販売の強化や飲食店への営業など ・中土佐町のふるさと納税活性化事業 情報発信の強化及び効果的な企画の立案	
			R3	4,300万円	2,893万円	D						
			R4	3,000万円								
			R5	4,900万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>19 大正町市場商店街活性化事業</b> (中土佐町)  <b>【実施主体】</b> ◎・大正町市場組合 ・中土佐町商工会 ・中土佐町	チャレンジショップによる新規開業店舗数  1店舗 (H29～R元累計)	R2	1店舗	1店舗	A	1 中土佐町中心商店街等振興協議会における協議 ○進捗状況等の情報共有 ・県・町・商工会等での情報共有 ・久礼お宮さん通り商店街組合定例会の開催(月1回)を通じた情報共有 ・WSでの情報共有 ○協議会の開催 ○アクションプラン作成に向けたWSの開催  2 チャレンジショップ事業による空き店舗対策 ○チャレンジショップ出店者の募集(出店者-無-場合) ○SNS等での周知活動 ・SNS等を利用した周知活動(通年) ・イベント等を利用した周知活動(通年) ○チャレンジ店への店舗運営・新規出店等のサポート(出店者-有-場合) ○その他 ・チャレンジショップ店舗改修(4・5月)	1 中土佐町中心商店街等振興協議会における協議 ・久礼お宮さん通り商店街組合定例会の開催(月1回)を通じた情報共有 (新型コロナ状況下での営業、かつお祭連携イベント、「水曜どうでしょう」関連イベント等) (4～11月)  2 チャレンジショップ事業による空き店舗対策 ・ホームページ・SNS等を利用し随時募集 (4～11月) ・チャレンジショップ店舗改修完了 (5月) ・チャレンジショップ出展者募集イベント (10/10)	0店舗 (11月末時点)  ・R4目標達成率：0% ・対前年同期比：-%	D  (成果) ・チャレンジショップ出店者 決定 (1月開店) チャレンジショップへの問合せ 9件 ・定例会にて情報共有したことで、商店街内で協力してかつお祭や「水曜どうでしょう」関連イベントと連携したイベントが実施できた。  (課題) ・全体的に進捗が遅れているため、再度スケジュールを見直す。 ・チャレンジショップ希望者1名と詳細を検討中。  (今後の方向性) ・全体的に進捗が遅れているため、コロナ禍で進めにくい、できることから実施していく。 ・チャレンジショップ希望者が出店できるように支援する。	1 中土佐町中心商店街等振興協議会における協議 ○進捗状況等の情報共有 ・県・町・商工会等での情報共有 ・久礼お宮さん通り商店街組合定例会の開催(月1回)を通じた情報共有 ・WSでの情報共有 ○協議会の開催 ○アクションプラン作成に向けたWSの開催  2 チャレンジショップ事業による空き店舗対策 ○チャレンジショップ出店者の募集(出店者-無-場合) ○SNS等での周知活動 ・SNS等を利用した周知活動(通年) ・イベント等を利用した周知活動(通年) ○チャレンジ店への店舗運営・新規出店等のサポート(出店者-有-場合)	
			R3	1店舗	0店舗	D						
			R4	1店舗								
			R5	2店舗 (R2～5累計)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>20 中土佐町SEAプロジェクト</b> (中土佐町) <b>【実施主体】</b> ◎・(株)SEAプロジェクト ・中土佐町	年間売上額(施設全体) 2.8億円(H30)	R2	3.5億円	2.3億円	D	1 販わい創出への展開 ・取り扱い商品等の充実・見直し ・季節ごとのフェア・イベントの実施 ・旬の食材やロケーションを活かした広報・PR活動の実施 (SNSでの情報発信) ・生産者やテナント店舗との連携 ・町内登録出荷者及び新規登録者への訪問 ・イベントへの出店案内 ・アドバイザー制度を活用した魅力ある施設づくりの検討	1 販わい創出への展開 ・スプリングフェアの開催 (4月~5月) ・FF売上げ向上にむけたアドバイザーの導入 (5回) ・ゆかた祭りの開催 (8月) ・新商品 (塩) の動画、新子など旬の情報の発信 ・お客様のニーズに合った商品の提供 漁師町の道の駅の特色を生かした惣菜等	年間売上額(施設全体) : 2.0億円 (11月末時点) ・R4目標達成率 : 77% ・対前年同期比 : 119%	C	(成果) ・出店商品の見直し ・アドバイザーを活用したメニュー見直し等によるFFの売上げ向上 ・商談会等による新たな販路開拓及び出展を通じた人脈の獲得 (課題) ・地域の生産者・事業者とのさらなる連携強化 ・生産者の高齢化と出荷量の減少 ・中心商店街や町内事業者と連携した取り組みの強化 (今後の方向性) ・商品の安定供給に向けて出荷者との連携を強化していく。 ・季節感のあるメニューの充実 (FF) ・イベント等の開催を通じて各テナントとの連携や、協力体制を強化していく。 ・「食」をテーマにした周遊プランなど、中心商店街との連携を検討していく。 ・町内の外商に関わる事業者・団体と連携し、情報共有を行いながら外商活動を進めていく。	1 販わい創出への展開 ・取り扱い商品等の充実・見直し ・季節ごとのフェア・イベントの実施 ・旬の食材やロケーションを活かした広報・PR活動の実施 (SNSでの情報発信) ・生産者やテナント店舗との連携 2 周辺施設との連携強化 ・中土佐町中心商店街等振興計画の取り組みを通じた連携事業の検討 ・周辺観光施設と連携した取り組みの検討 ・各施設と連携を図り町内周遊イベントを実施 3 地産外商の取り組み ・新たな商品開発の実施 ・イベント・商談会への出展 ・マルシェなかとさ出荷者との連携 ・ECサイトへの商品掲載及び商談会への商品案内 (出荷者)
			R3	3.9億円	2.6億円	D	2 周辺施設との連携強化 ・中土佐町中心商店街等振興計画の取り組みを通じた連携事業の検討 ・周辺観光施設と連携した取り組みの検討 ・各施設と連携を図り町内周遊イベントを実施	2 周辺施設との連携強化 ・道の駅なかとさスプリングフェア (4月) における黒潮本陣との連携企画 (入浴チケットの配布 (抽選)) ・オリジナル商品 (いちごビール・いちご大福) に使用するイチゴ生産者との連携強化 (生産状況の確認、収穫への参加 (6月)) ・ゆかた祭りなどテナント事業者と連携したイベントの実施 (8~11月) ・オリジナル商品 (塩) の開発、イチゴ生産者や漁師との連携 (12回) ・5周年記念イベントにおける地域の事業者との連携 (抽選会への協賛 (7/16~18)) ・観光会社等との連携によるバスの周遊プランの検討・協議 (10月)				3 地産外商の取り組み ・新商品企画・販売に向けた現場視察など出荷者との打合せ ・食材・商品の提案・マッチング 1件 ・展示商談会への出展 4回 土佐の宴・大阪 ほか ・イベント等による中土佐町の食のPR 3回 みなとオアシスsea級グルメ全国大会(愛媛県八幡浜市) ほか ・新商品漁師町ソルト販売開始 (9/23~)
			R4	3.9億円			2 周辺施設との連携強化 ・中土佐町中心商店街等振興計画の取り組みを通じた連携事業の検討 ・周辺観光施設と連携した取り組みの検討 ・各施設と連携を図り町内周遊イベントを実施	2 周辺施設との連携強化 ・道の駅なかとさスプリングフェア (4月) における黒潮本陣との連携企画 (入浴チケットの配布 (抽選)) ・オリジナル商品 (いちごビール・いちご大福) に使用するイチゴ生産者との連携強化 (生産状況の確認、収穫への参加 (6月)) ・ゆかた祭りなどテナント事業者と連携したイベントの実施 (8~11月) ・オリジナル商品 (塩) の開発、イチゴ生産者や漁師との連携 (12回) ・5周年記念イベントにおける地域の事業者との連携 (抽選会への協賛 (7/16~18)) ・観光会社等との連携によるバスの周遊プランの検討・協議 (10月)				3 地産外商の取り組み ・新商品企画・販売に向けた現場視察など出荷者との打合せ ・食材・商品の提案・マッチング 1件 ・展示商談会への出展 4回 土佐の宴・大阪 ほか ・イベント等による中土佐町の食のPR 3回 みなとオアシスsea級グルメ全国大会(愛媛県八幡浜市) ほか ・新商品漁師町ソルト販売開始 (9/23~)
			R5	3.9億円			2 周辺施設との連携強化 ・中土佐町中心商店街等振興計画の取り組みを通じた連携事業の検討 ・周辺観光施設と連携した取り組みの検討 ・各施設と連携を図り町内周遊イベントを実施	2 周辺施設との連携強化 ・道の駅なかとさスプリングフェア (4月) における黒潮本陣との連携企画 (入浴チケットの配布 (抽選)) ・オリジナル商品 (いちごビール・いちご大福) に使用するイチゴ生産者との連携強化 (生産状況の確認、収穫への参加 (6月)) ・ゆかた祭りなどテナント事業者と連携したイベントの実施 (8~11月) ・オリジナル商品 (塩) の開発、イチゴ生産者や漁師との連携 (12回) ・5周年記念イベントにおける地域の事業者との連携 (抽選会への協賛 (7/16~18)) ・観光会社等との連携によるバスの周遊プランの検討・協議 (10月)				3 地産外商の取り組み ・新商品企画・販売に向けた現場視察など出荷者との打合せ ・食材・商品の提案・マッチング 1件 ・展示商談会への出展 4回 土佐の宴・大阪 ほか ・イベント等による中土佐町の食のPR 3回 みなとオアシスsea級グルメ全国大会(愛媛県八幡浜市) ほか ・新商品漁師町ソルト販売開始 (9/23~)

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>21 中土佐町地産外商の取り組み</b> (中土佐町) ◎・中土佐町 ・(株)SEAプロジェクト ・企画・ど礼もん企業組合 ・中土佐町商工会	商品開発品目数 0 (R2)	R2	-	-	-	1 地産外商に向けた体制づくり ・連絡会(年2回) 2 地産外商の推進 ○商品開発、磨き上げ ・地域ブランド研究会メンバーを中心とした、商品開発・磨き上げ開始 ・必要案件に応じて、個別アドバイザー招聘依頼 ○人材育成 ・地域ブランド研究会メンバーを中心とした、販路開拓・拡大の開始 ・地域ブランド研究会HPの充実と情報発信 ・外商フェアや商談会等への参加 ○販路開拓・拡大 ・外商に関するセミナーの実施 ・外商フェアや商談会等への参加 ・産業振興事業費補助金の募集 ・食のつながり支援事業費補助金の募集	1 地産外商に向けた体制づくり ・ブランド研究会意見交換会の機会を活用した情報交換の実施。(4/20) ・四国産業局との意見交換会の実施(6/1) 外商に関する情報共有等(道の駅、ふるさと納税など) ・イベントの実施や商談会の出展を通じた事業者間の情報の共有・連携の強化 2 地産地消の推進 ○商品開発、磨き上げ ・ブランド研究会の会員事業者による新商品開発への支援 工業技術センターでの試作支援等 ・6次産業セミナーを活用した商品開発の支援 アップグレードコース参加 2者(風工房、のらごと舎) 県内中華調理店等へのライスパーパー試食調査(9/28) ・新商品の開発・販売開始 3件 →漁師町ソルト@道の駅なかとさ(9/23) 炭スポンジケーキ@風工房(10月) ローストホットソース@下村農園(11月) ・食品開発展の展示会及び商談会への参加(10/12:東京) ○人材育成 ・商談会・展示会での外商に関する調査及び情報収集 3回 japanマーケティングWeek ・地域ブランド研究会によるセミナーの開催 ①一次産業デザイン〜ブランディング〜(6/9) ②生産者・食品加工者のための事業計画&分析セミナー(8/23) ③営業について考えよう(9/6) ・ブランド研究会意見交換会の実施(5/31) 外商の事例紹介、販路拡大に関する意見交換など ○販路開拓・拡大 ・展示会及び商談会等への参加等 3回 →japanマーケティングほか ・百貨店バイヤーとの打ち合わせ(4/8) ・MEDE IN NAKATOSAフェアの開催 2回 蔦屋書店(6/18)、まるごと高知(11/26~11/27)	3商品(11月末時点) ・R4目標達成率:100% ・対前年同期比:150%	<b>A</b> (成果) ・新商品の開発 3件 ・ブランド研究会との連携により事業者のニーズや状況を把握して、展示会・商談会への参加やセミナー等を企画・開催することで、事業者への情報提供とともに商品開発への意欲の向上につなげることができた。 (課題) ・参画する事業者に偏りが生じないよう、ニーズにあった多様な事業の企画や参加しやすい開催方法の検討が必要。 ・町内には加工施設がなく、事業者が新商品開発に取り組みやすい環境づくりが必要 (今後の方向性) ・ブランド研究会との連携と役割分担をすすめ、事業者の商品づくりや販売拡大をより効果的に支援していく。	1 地産外商に向けた体制づくり ・連絡会の開催等による情報共有及び連携 2 地産外商の推進 ○商品の開発、磨き上げ ○人材育成 ・外商に関するセミナーの実施 ○販路開拓・拡大 ・外商フェアや商談会への参加 ・外商活動の支援(産業振興事業費補助金)	
			R3	3商品	4商品	S						
			R4	3商品								
			R5	10商品(R2~5累計)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>22 梶原町地場産品の地産地消・外商の促進</b> (梶原町) 【実施主体】 ◎・梶原町商工振興協同組合 ・JA高知県(高西地区) ・町内事業者 ・生産団体	販売額 2,368万円 (H30)	R2	2,600万円	2,385万円	B	<b>1 地場産品の販売促進</b> ・町内外のイベント出店 ・「雲の上ストア」での販売強化 ・地場産品を使った「雲の上ブランド」商品の販売  <b>2 地場産品の商品力向上</b> ・集落活動センターの加工グループや生産団体向けの研修会の開催 ・食品表示やHACCP研修会の開催	<b>1 地場産品の販売促進</b> ・雲の上ストア商品の見直し(6月17日第一回集落活動センターゆずはら連絡協議会にて) ・道の駅準備室による集出荷の実証実験(4月～11月)、直販所出荷おうえん事業として町単補助金の支援 ・友好都市である兵庫県西宮市「にしのみや市民祭り」に出店(R4.10.22) ・関西版産品商談会に出店(キクイモ)R4.11.22  <b>2 地場産品の商品力向上</b> ・直販所出荷おうえん事業として生産者向け研修と生産者による意見交換会を実施	3,670万円(11月末時点)  ・R4目標達成率:172% ・対前年同期比:139%	S	(成果) ・雲の上ストアについて掲載している商品の名称を再検討するなど、集活全体で協議をすることができた。  (課題) ・雲の上ストアについて、全く売上がない月があるが、分析まではできていない。  (今後の方向性) ・チーム会を実施し、計画の見直しから行う。 ・雲の上ストアについて、実績から分析を行う。 ・広報活動の強化(KOCHIお取り寄せ・贈り物グルメカタログへの掲載を検討。)	<b>1 地場産品の販売促進</b> ・町内外のイベント出店 ・「雲の上ストア」での販売強化 ・地場産品を使った「雲の上ブランド」商品の販売 ・「KOCHIお取り寄せ・贈り物グルメカタログ」への掲載の検討  <b>2 地場産品の商品力向上</b> ・集落活動センターの加工グループや生産団体向けの研修会の開催 ・食品表示やHACCP研修会の開催
			R3	3,000万円	3,645万円	S						
			R4	3,200万円								
			R5	4,000万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>23 津野町地産地消・外商販売戦略</b> (津野町)  <b>【実施主体】</b> ◎・(有)津野町ふるさとセンター ・(株)満天の星 ・(一財)天狗荘 ・津野町	直販所総販売額 1.36億円 (H30)	R2	1.37億円	1.42億円	A	1 出荷量の確保と高付加価値農産物の出荷 ・直販所営農コーディネーターによる生産者指導 ・営業許可制度の周知及び指導、HACCPに沿った衛生管理の周知 ・食品衛生法改正による漬物製造者の事業継続支援の検討 ・6次産業化サポートセンターによる経営管理 ・町内生産者に対する支援	1 出荷の確保と高付加価値農産物の出荷 ・営農コーディネーターによる生産者の巡回指導(通年) ・ふるさとセンター会員(出荷者)の営業届出のとりまとめ ・漬物製造者に対する支援策検討 ・町内ブドウ農家を対象に栽培研修実施(5月、2回) ・直販所の農産物安定供給対策として、苗購入費補助(5品目:じゃがいも、玉ねぎ、キャベツ、大根、里芋) ・直販農家育成支援として、新規出荷者に対する苗の無償配布(2名) ・高知農山漁村発イノベーションセンター(旧6次産業化サポートセンター)による(有)ふるさとセンターの経営指導 ・津野町直販システムの強化に向けた取り組み(産振補助金(ステップアップ事業)、12/1~)	0.93億円(11月末時点)  ・R4目標達成率:100% ・対前年同期比:101%	A	(成果) ・R3年度に6次産業化サポートセンター事業を活用し、道の駅の内装をリニューアルしたことや、コロナの行動制限緩和されたことで、道の駅の入込が増加した。そのため直販所の売上増にもつながった。  (課題) ・直販所への農産物の安定的な出荷量の確保  (今後の方向性) ・ふるさとセンターと営農コーディネーターが連携し、直販所の安定した運営を行う ・高知農山漁村発イノベーションセンター(旧6次産業化サポートセンター)を活用し、(有)津野町ふるさとセンターの経営力強化を継続(R4年度中)。	1 出荷量の確保と高付加価値農産物の出荷 ・直販所営農コーディネーターによる生産者指導 ・営業許可制度の周知及び指導、HACCPに沿った衛生管理の周知 ・食品衛生法改正による漬物製造者の事業継続支援 ・町内生産者に対する支援
			R3	1.38億円	1.32億円	B						
			R4	1.39億円								
			R5	1.40億円								
	(株)満天の星売上 2.07億円 (H30)  ※決算期別:前年10~9月	R2	2.00億円	1.79億円	B	1 津野町産品の外商力の強化 ・見本市・展示・商談会への参加等による販路獲得  2 各社の基盤強化と連携 ・役場を含む4者会議の実施 ・ふるさとセンターと(株)満天の星の連携事業の検討 ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジTENGUへ食材供給の検討 ・満天の星から星ふるヴィレッジTENGUへの土産品の開発	1 津野町産品の外商力の強化 ・マンテンFC(株)が桂浜店をプレオープン(10/22~) ・高知大丸での津野町セレクト開催(7/27~8/2)  2 各社の基盤強化と連携 ・4者会議による各社の情報共有(7月) ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジTENGUへ食材供給の継続(R3.11月~) ・ふるさとセンターから町内介護施設及び給食センターへの食材供給の継続(R3.10月~) ・満天の星から星ふるヴィレッジTENGUへ土産品の供給(R3.7月~) ・満天の星とふるさとセンターが連携し新メニュー開発(6/1~販売)	1.87億円(R3.10~R4.9月末時点)  ・R4目標達成率:81% ・対前年比:106%	C	(成果) ・マンテンFC(株)桂浜店オープンにより津野町の特産品のさらなるPRに期待できる。  (課題) ・ふるさとセンターからTENGUに供給する食材が少ない。  (今後の方向性) ・ふるさとセンターからTENGUへ積極的な働きかけ(営業等)を継続。	1 津野町産品の外商力の強化 ・見本市・展示・商談会への参加等による販路獲得  2 各社の基盤強化と連携 ・役場を含む4者会議の実施 ・ふるさとセンターと(株)満天の星の連携事業の実施 ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジTENGUへ食材供給 ・満天の星から星ふるヴィレッジTENGUへの土産品の供給	
		R3	2.16億円	1.76億円	C							
		R4	2.32億円	1.87億円	C							
		R5	2.49億円									



分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>24 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備</b> (四万十町) 【実施主体】 ◎・四万十町 ・(株)あぐり窪川 ※地域産業クラスター関連(四万十のうまい豚クラスタープロジェクト)	豚まん等販売額 9,300万円 (H30)	R2	1.8億円	1.3億円	C	1 加工施設の整備 ・新商品のプロモーション活動 試作品づくり 旧加工場 高知版HACCPステージ2取得 2 商品開発と販路開拓 ・営業活動の展開 新加工場での着実な増産と主要取引先への販売 秋冬商品商談会での営業強化(夏頃～) ・SNSを活用した個人顧客の獲得 専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの強化 3 地域資源の発掘と活用 ・加工用農林水産物の生産・集出荷体制の構築	1 加工施設の整備 ・4/1より豚まんの販売価格を値上げ(2個入400円→460円) ・第二工場 高知県版HACCP新ステージ2取得 ・社内において新商品開発のプロジェクトチーム立ち上げ →地元企業とコラボした新商品開発の取組(中華まん) 2 商品開発と販路開拓 ・営業活動の展開 商談会等： 東海スーパーマーケットビジネスフェア、県産品商談会等10件 ・SNSを活用したイベントや商品の広報 4/16～24 道の駅あぐり窪川創業フェア 7/9～18 あぐりでひんやり夏フェア 10/8～16 秋の収穫フェア 他	6,323万円(10月末時点) ・R4目標達成率：52% ・対前年同期比：92%	D	(成果) ・地元企業と連携した新商品開発による試作品の製造 (課題) ・豚まんの値上げの影響により、売上の伸びが減少している ・原材料費等の高騰 ・SNSにおける魅力ある投稿 ・ECサイトでの売上増加 (今後の方向性) ・試作品のブラッシュアップ及び商品化 ・販売戦略に基づいた積極的な販路開拓	1 加工施設の整備 ・新商品のプロモーション活動 試作品づくり、商談会等への出展、プロモーション活動の実施 2 商品開発と販路開拓 ・営業活動の展開 新加工場での着実な増産と主要取引先への販売、外販強化のための戦略づくりと商品の磨き上げ ・SNSを活用した個人顧客の獲得 専門家を通じた情報発信のスキルアップ、ウェブサイトの強化 3 地域資源の発掘と活用 ・加工用農林水産物の生産・集出荷体制の構築
			R3	1.9億円	1.43億円	C						
			R4	2.1億円								
			R5	2.33億円								
商工業	<b>25 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大</b> (四万十町) 【実施主体】 ◎・(株)ぶらうん	加工品売上高 5,210万円 (H30)	R2	9,426万円	7,635万円	C	1 商品開発 ・新規(惣菜)部門の商品開発 商談会等への参加によるバイヤー・消費者の嗜好把握 商品開発に関するセミナー等の受講 ・ペットビジネス事業の検討 商談会等の参加による市場調査の実施 2 販路開拓 ・2号店の営業安定 本店および2号店の人材確保 ・営業活動による販路拡大 イベントへの参加、商談会等への出展	1 商品開発 ・マクアケ クラウドファンディングセミナー(5/10) ・地産地消・外商課 商品づくりワーキングへの参加(5/11) ・マクアケ 商談面接(5/11) ・瀬戸内グローバルラボ 貿易セミナー(香川)(5/12-13) ・マクアケ勉強会(8/19) 2 販路開拓 ・2号店に製菓スタッフを雇用 ・卵及び冷凍スイーツの輸出に向け、高知県輸出促進セミナー(11/11)他、貿易商社や台湾ネット販売大手との商談を実施 ・商談会等：30回(4～11月)	5,145万円(11月末時点) ・R4目標達成率：61% ・対前年同期比：95%	D	(成果) ・2号店の製菓スタッフ雇用による人員不足解消 (課題) ・惣菜(茶碗蒸し)の新商品開発に遅れが発生している (今後の方向性) ・輸出に向けては、引き続き支援機関との打ち合わせや商談等を通じた情報収集を実施	1 商品開発 ・新規(惣菜)部門の商品開発 商談会等への参加によるバイヤー・消費者の嗜好把握 商品開発に関するセミナー等の受講 ・輸出事業の検討 セミナー参加等による情報収集の実施 2 販路開拓 ・人材確保・人材育成 ・営業活動による販路拡大 イベントへの参加、商談会等への出展
			R3	1.1億円	8,845万円	C						
			R4	1.26億円								
			R5	1.27億円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>26 四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発</b> (四万十町)  <b>【実施主体】</b> ◎・RELA GREEN VILLAGE(株)	売上高 907万円 (H30)	R2	900万円	217万円	D	<b>1 施設整備</b> ・実行支援チーム会の開催 ・事業計画の策定  <b>2 商品開発・販売促進</b> ・6次産業化セミナー等を活用した新商品開発 ・催事、商談会への参加  <b>3 病害対策</b> ・ドローン等を活用した病害対策方法の確立 ・農家、企業と連携した圃場管理方法の検証及び確立	<b>1 施設整備</b> ・年度中の事業計画策定を予定していたが、ショウガの価格下落等により今後の見通しを立てることが困難となったことから、事業計画策定を見送っている  <b>2 商品開発・販売促進</b> ・日程調整が困難であるため、6次産業化セミナーへの参加は見送り ・6次産業化セミナー講師の白田氏が「四万十組」に対して個別に支援を行ってくれるため、そちらで加工品についての相談等を行う(ガリ等) ・5/26～29 ルミネアグリマルシェ出展(四万十組として参加) ・7/28～30 ルミネアグリマルシェ出展(四万十組として参加) ・8/29 白田氏オンライン勉強会 ・12/12-13 白田氏来町 ・12/15-16 ルミネアグリマルシェ ・「生姜プロテイン」を四万十町ふるさと納税返礼品として登録  <b>3 病害対策</b> ・高知大によるショウガの病害についての調査・研究事業との連携(圃場への温度計・水分計の設置、エゴマを使った病気の広がり方の調査)	-万円(-月末時点)  ・R4目標達成率：- ・対前年同期比：-	-	<b>(成果)</b> ・ルミネアグリマルシェへの参加による消費者ニーズの調査  <b>(課題)</b> ・ショウガを使った商品開発(ガリ、お茶等)  <b>(今後の方向性)</b> ・専門家と連携した商品開発、補助金等各種支援策の活用を検討 ・施設整備の内容、時期等の検討	<b>1 施設整備</b> ・事業計画の検討  <b>2 商品開発・販売促進</b> ・生姜を使った新商品の開発 ・催事、商談会への参加  <b>3 病害対策</b> ・ドローン等を活用した病害対策方法の確立 ・農家、企業と連携した圃場管理方法の検証及び確立
			R3	1,200万円	1,250万円	A						
			R4	1,600万円								
			R5	2,000万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>27 四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト</b> (四万十町) 【実施主体】 ◎・OUCHI企画(同)	売上高 300万円 (R2)	R2	-	300万円	-	1 組織体制の強化 ・地域おこし協力隊(現役、OB)との連携および協力 ・周辺製材事業者との協力体制構築、協議会設立準備	1 組織体制の強化 ・地域おこし協力隊との連携によるサウナ体験プログラム検討会(6/22) ・協議会設立のための関係者との相談(随時) 2 商品の開発と販路拡大 ・産業振興アドバイザー派遣(販路拡大)2回:6/23、8/25 ・高知県ものづくり技術展出店(11月10日~12日) ・樽製造業者(大阪:マルト)訪問・協議(9/9) ・煙の出ないサウナ(電気ストーブサウナ)の試作・開発及び販売(1件) 3 生産拠点の検討と整備 ・産業振興アドバイザー派遣(事業戦略づくり)4回:6/23、8/8、10/19、12/1 樽事業の実施体制整理や事業戦略の作成 ・バイヤーを通じたサウナ販売(1件)	250万円(11月末時点) ・R4目標達成率:25% ・対前年同期比:89%	D	(成果) ・サウナ体験プログラムの課題抽出ができた。 ・事業戦略策定に向けて協議を開始し、事業の優先順位が固まった。 ・県外への販売先を一定確保できた。 ・樽の内製化に向けて大阪の樽製造業者から技術提供を受けていく予定となった。 (課題) ・組織体制の強化(周辺事業者や地域おこし協力隊等の社外人材との協力体制の確立) ・効果的なPRや商品に合った販売先の検討が必要 (今後の方向性) ・アドバイザーの導入により、課題を抽出・整理するとともに、R5年度新規事業(タルの製造)に取り組む	1 組織体制の強化 ・樽製造組織の検討 2 商品の開発と販路拡大 ・新商品(脱・薪ストーブの熱源サウナ等)の発売 ・樽商品の完成、販売開始 ・新商品開発に伴うHPの改修 3 生産拠点の検討と整備 ・樽製造機器の整備
			R3	1500万円	620万円	D						
			R4	1500万円								
			R5	1500万円								
商工業	<b>28 四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大</b> (四万十町) 【実施主体】 ◎・四万十うなぎ(株)	販売額 9億円 (R2見込)	R2	9億円	7.5億円	C	1 施設整備 ・施設整備に向けた検討 2 商品開発・販売 ・新商品の開発・検討 新商品開発 加工の段階で出るB級品の商品化検討 ・(国内外向け)販促活動 催事および商談会等への出展 3 人材確保・育成 ・加工場の人材確保 ハローワーク等を通じた加工場の人材確保	-円 ・R4目標達成率:-% ・対前年同期比:-%	-	(成果) ・新商品の販売開始 (課題) ・加工場整備予定地の農地転用 (今後の方向性) ・農地転用の時期をふまえた事業計画・スケジュール等を確認しながら、商品開発や販路開拓の支援を行う。	1 施設整備 ・施設整備に向けた検討 2 商品開発・販売 ・新商品の開発・検討 新商品開発 加工の段階で出るB級品の商品化検討 ・(国内外向け)販促活動 催事および商談会等への出展 3 人材確保・育成 ・加工場の人材確保 ハローワーク等を通じた加工場の人材確保	
			R3	9億円	8.6億円	B						
			R4	10億円								
			R5	11.2億円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>29 高幡地域における広域観光の推進</b> (高幡地域全域)  <b>【実施主体】</b> ◎・奥四万十観光協議会 ・須崎市 ・中土佐町 ・梶原町 ・津野町 ・四万十町	主要観光施設入込客数 2,306,990人 (H30)	R2	2,422,340人	1,558,089人	D	<b>1 観光情報の発信</b> ・季節に応じた雑誌やフリーペーパーへの広告掲載 ・ホームページを活用した情報発信 ・奥四万十観光ガイドブック・マップ改修 ・インバウンド観光大使育成事業  <b>2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</b> ・域内周遊企画の企画検討(宿泊・体験施設の連携) ・四国内プロモーション活動(道の駅、レンタカー会社営業) ・観光コンベンション協会・四国ツーリズム創造機構等とのセールス活動 ・企業訪問による誘致活動の実施(東京、名古屋、福岡、広島、岡山、大阪)  <b>3 広域観光組織の機能強化</b> ・新たな戦略の立案・実施 法人運営に向けた手続き 第2期中期計画(R5~R7)の作成	<b>1 観光情報の発信</b> ・HP等による奥四万十エリアの観光情報の発信 ・旅たび高知、わおマップへの掲載 ・観光情報発信支援委託業務への参画(7月)(県事業の活用) ・インバウンド観光大使育成事業研修(7/9,7/30,8/6,9/3) ・インバウンド観光大使育成事業委嘱式(9/24) ・奥四万十温泉郷周遊スタンプラリーの支援(9/1~3/1) ・奥四万十泊まらんと巡らんとキャンペーンの実施(9/1~3/1)  <b>2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</b> ・「地域づくり塾」を活用した域内周遊企画の検討(7月~)(県事業の活用) ・観光コンベンション協会、四国ツーリズム創造機構等とのセールス活動、企業訪問による誘致活動の実施(福岡、広島、大阪、東京) ・パンフレットを活用したセールス活動の実施 ・クルーズ船オプショナルツアー商談会(11/8)  <b>3 広域観光組織の機能強化</b> ・奥四万十観光協議会理事会(7/12、12/30) ・奥四万十観光協議会担当者部会(5/31) ・奥四万十観光協議会推進部会(4/21、6/23) ・広域観光協議会担当者会への参加(4/28) ・広域観光協議会事務局長会への参加(5/16) ・奥四万十高知推進部会(6/23) ・奥四万十高知理事会・総会の実施(7/12) ・奥四万十高知企画広報部会(8/16) ・奥四万十高知観光事業調整会(9/28、10/4~6、11/16) ・奥四万十高知県との定例会(8/17、10/27) ・高知県観光ガイド連絡協議会への出席(5/20、9/28) ・連続テレビ小説を生かした博覧会推進協議会への出席(5/26、8/1、10/28) ・須崎市海のまちプロジェクト会議への出席(7/26) ・広域連携による四国カルストエリア活動エリア活性化に向けた関係市町協議への出席(10/14) ・土佐の観光創生塾への参加(6/24、7/11)(県の地域商品造成等の事業の活用) ・滞在型観光プランの作成(県の観光地域づくり体制強化事業の活用) 分科会の実施(7/4、8/9、11/8) ・デジタルデータ活用事業への参加(県事業の活用) 分科会の実施(6/22、7/19、7/28、8/23、10/20、11/1、12/5)	主要観光施設入込客数 (R4.4~10月) 1,339,329人 ・R4目標達成率：88%	<b>B</b>	(成果) ・一般社団法人化(6/1) ・旅行業第3種の登録(10/24) ・法人としての組織体制を構築しつつ、計画通りの事業を遂行できている。  (課題) ・R3年度に策定できなかった中期計画の策定 ・県広域観光推進事業費補助金への申請に向けた事務・管理体制の整理  (今後の方向性) ・策定中の中期計画を完成させ、5市町や地域の事業者と連携を図りつつ、R5年度以降の事業実施体制を整える。	<b>1 観光情報の発信</b> ・ホームページによる情報発信 ・ガイドブック・マップの活用 ・SNSを活用した情報発信 ・メディアとタイアップした誘致促進企画 ・プロモーションの実施 ・動画を活用した情報発信 ・インバウンドに向けた情報発信  <b>2 地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</b> ・体験プログラム拡充に向けた域内事業者への支援 ・域内周遊キャンペーン企画の実施 ・インバウンド向けの商品開発 ・教育旅行誘致に向けた取組強化 ・体験プログラムの販売 ・旅行会社への営業活動 ・観光関連事業者への営業活動 ・各種イベントへの出展によるPR活動の実施 ・クルーズ船向けオプショナルツアーの企画提案  <b>3 広域観光組織の機能強化</b> ・地域事業者向けセミナーの実施 ・デジタルデータ活用推進事業 ・高知県・各市町との連携・連動したツーリズム施策の推進 ・インバウンド受入に向けた基盤整備 ・アンケート調査
			R3	2,519,234人	1,699,260人	D						
			R4	2,594,811人								
			R5	2,646,000人								
	主要宿泊施設宿泊者数 56,441人 (H30)	R2	59,263人	38,779人	D	<b>・地域内で連携体制の強化</b> ワンストップ機能の構築(プラットフォーム機能) 推進部会、担当者部会(専門部会)の開催 ・観光客受入大勢基盤・マーケティング機能の強化 事業者を対象としたスキルアップ研修会の開催 担当者部会(専門部会)運営による受入体制の磨き上げ 先進地視察の事前調査 インバウンド受入体制の構築 観光施設等やイベントでのアンケート調査の実施・分析・フィードバック	主要宿泊施設宿泊者数 (R4.4~10月) 41,206人 ・R4目標達成率：111%	<b>S</b>				
		R3	61,634人	47,073人	C							
		R4	63,483人									
		R5	64,000人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>30 須崎市海のまちプロジェクト</b> (須崎市) <b>【実施主体】</b> ◎・須崎市 ・須崎市海のまちプロジェクト推進協議会	主要施設の来場者数 101,152人 (R2)	R2	-	101,152人	-	1 海のまち創り・リノベーション ・海のまちのブランディング ・コアゾーンにおけるエリアの策定及びリノベーション ・拠点施設等の整備 2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・既存体験や名物等のブラッシュアップ ・縁日商店街企画の検討実施 3 エリア外との連携促進 ・海のまちの仲間づくり ・須崎市内への波及や周辺エリアとの連携の検討・実施	1 海のまち創り・リノベーション ・日本財団海と日本プロジェクトにおける海の民話のまちプロジェクトキックオフミーティングの開催 ・第3回海のまちプロジェクト全体会議の実施 ・空き店舗活用に関する商工会議所と連携した情報収集 ・空き店舗活用について静岡県静岡市用宗地区の視察 ・新たなリノベーション施設須崎大漁堂のオープン 2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・富士が浜でのくつろぎポイントづくりについての検討 ・アニメクリエイター聖地プロジェクトと連動したイベント開催 ・須崎大漁堂オープン記念イベントの開催 3 エリア外との連携促進 ・高知大学と須崎総合高校の連携による海のまちプロジェクトへの参画強化に向けて地域おこし協力隊の配置 ・浦ノ内マリパーク誕生記念マルシェの開催 ・アニメクリエイター聖地プロジェクトと連動したイベント開催(再掲)	21,813人(12月末時点) ※一部未集計項目あり ※集計分によるR4目標達成率:119%	-	(成果) ・海の民話のまちプロジェクトの事業採択 ・マリパーク誕生記念海のまちマルシェへ延べ6,500人が来場 ・アニメクリエイター祭須崎会場へ延べ5,500人が来場 ・須崎大漁堂のオープン (課題) ・年度内は協議会による須崎大漁堂の試験運営を実施しており、正式な運営主体の早期決定が必要。 (今後の方向性) ・引き続き多くの関係機関や関係者と情報共有を行いながら、プロジェクトの推進を行っていく。 ・令和5年度からは新たな拠点施設も運営を開始することから指標の見直しを行う必要がある。	1 海のまち創り・リノベーション ・海のまちのブランディング ・空き家空き店舗活用についての検討 2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・既存体験や名物等のブラッシュアップ ・縁日商店街企画の検討実施 3 エリア外との連携促進 ・海のまちの仲間づくり ・須崎市内への波及や周辺エリアとの連携の検討・実施
			R3	110,600人	104,431人	B						
			R4	134,500人								
			R5	146,400人								
		エリア内新規出店数 (R3～の延べ) 6件 (R2)	R2	-	6件	-	2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・起業支援制度の継続 ・新たな支援制度の検討	2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・起業支援制度の継続 ・新たな支援制度の検討	※現在出店者確認中	-	(成果) ・須崎市中小企業者等経営支援事業保証料補助金の活用 R3からの継続3件 R4からの新規2件 (課題) (今後の方向性) ・継続した予算の確保に努めるとともに、新規起業につながるよう検討を行う。 ・必要に応じて制度の見直しや新たな制度の検討を行う。	2 海のまちの魅力の向上・再発見 ・起業支援制度の継続
			R3	3件	3件	A						
			R4	5件								
			R5	7件								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>31 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化</b> (須崎市)  <b>【実施主体】</b> ◎・須崎市 ・須崎市観光協会 ・NPO法人すさきスポーツクラブ ・指定管理者 ・その他関係事業者等	交流人口 8,201人 (R2)	R2	-	8,201人	-	1 海洋スポーツの振興 ・合宿等のプロモーション・定着に向けた活動 ・全国大会等の海洋スポーツ大会誘致	1 海洋スポーツの振興 ・地域おこし協力隊の配置 ・すさきOWS2022の開催 ・日本水泳連盟主催OWSオーシャンズカップ2022への視察 ・コロナ対応を実施したドラゴンカヌー競漕会の開催	51,676人 (12月末時点)  ・R4目標達成率：215% ・対前年同期比：614%	<b>S</b>	(成果) ・浦ノ内マリパークでの海のまちマルシェへ延べ6,500人が来場 ・視察における日本水泳連盟委員との意見交換 ・遊具公園の整備により平時のファミリー層の来場が増加  (課題) ・合宿誘致における宿泊、飲食対応場所の不足  (今後の方向性) ・8月16日から県内における対応ステージが特別対策となったことから、県内をはじめ全国的な感染状況を確認しつつ、イベント・大会をはじめとした各種取り組みを可能な限りの範囲で着実に実施していく。	1 海洋スポーツの振興 ・合宿等のプロモーション・定着に向けた活動 ・全国大会等の海洋スポーツ大会誘致検討  2 体験型観光の推進 ・各種体験メニューのブラッシュアップ ・PRの強化 ・教育旅行等の受け入れ体制の強化 ・スポーツツーリズムによる県外来場者の周遊についての検討・実施  3 地域の活性化に向けた連携強化 ・市内事業者や海のまちプロジェクト等との連携強化の検討
			R3	-	9,578人	-	2 体験型観光の推進 ・各種体験メニューのブラッシュアップ ・PRの強化 ・教育旅行等の受け入れ体制の強化	2 体験型観光の推進 ・野外体験施設(ロゴスパーク)のオープン ・COMODO URANOUCIにおけるSUP、シーカヤックについて坂内会場へ体験場所の変更 ・感染対策を実施しての海上アスレチックをはじめとしたCOMODO URANOUCIの開催 ・ドラゴンカヌーをはじめとした浦ノ内マリパークへの教育旅行の受け入れ ・ロゴスパークフェスタの開催				
			R4	32,000人			3 地域の活性化に向けた連携強化 ・市内事業者や海のまちプロジェクト等との連携強化の検討	3 地域の活性化に向けた連携強化 ・海のまちプロジェクトと連携した海のまちマルシェの開催 ・スポーツ大会と連携したモニターツアーの検討				
			R5	33,000人								
観光	<b>32 中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進</b> (中土佐町)  <b>【実施主体】</b> ・中土佐町	(1) 体験受入数 3,523人 (H30)	R2	3,700人	1,919人	D	1 体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成 ・コロナで中止になったイベント開催への補助金の活用 ・まち歩きガイドの受け入れ態勢の充実 ・体験漁業の満足度の向上及び製塩体験の本格運営の開始 ・周遊ツアー造成	1 体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成 ・新型コロナの影響により中止していたイベント等の再開 かつお祭：参加者数を40組160人に限定(国の新型コロナ対策補助金活用) 花火大会：時間を短縮して開催 サマーフェスタ：感染拡大期を避け秋に開催 ・まち歩きガイドの受付等業務の民間事業者(なかとさ観光協会)への委託 ・周遊ツアーの造成 ・観光庁の看板商品創出事業の採択及びモニターツアー(12/16)の実施	(1) 体験受入数 923人 (11月末時点)  ・R4目標達成率：37% ・対前年同期比：91%	<b>D</b>	(成果) ・感染防止策を講じたイベントの再開による観光客等の受入・情報発信 ・体験プログラム、体験ツアーの造成  (課題) ・コロナの感染状況に応じた受入対策や広報活動 ・SNSによる情報発信の効果測定  (今後の方向性) ・委託先のなかとさ観光協会とともに、観光受け入れの体制作りを進める。 ・旬の地域話題を提供し、コンシェルジュ機能を高めピーターの増加に努める。	<b>【No.33と統合】</b> 1 体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成 ・コロナで中止になったイベント開催への補助金の活用 ・まち歩きガイドの受け入れ態勢の充実 ・体験プログラムの満足度の向上 ・周遊ツアーの造成
			R3	3,700人	2,240人	D	2 誘客に向けた情報発信 ・観光情報の発信	2 誘客に向けた情報発信 ・情報発信業務をなかとさ観光協会に委託した。(HP、ブログ、Instagram、Facebook、高幡地域広域観光協会によるHP「奥四万十時間」を通じた情報発信)				
			R4	3,700人								
			R5	4,100人								
		(2) 宿泊者数 13,415人 (H30)	R2	13,500人	9,206人	D	3 観光拠点施設の運営 ・コロナ感染状況により、感染対策を講じながら適切な施設の開放を行う	3 観光拠点施設の運営 ・感染対策を講じながら施設の開放を行った(4月～12月)。 ・大正町市場で店舗関係者の感染があったが、食堂を休業して感染拡大防止に努めた(9月)	(2) 宿泊者数 10,368人 (11月末時点)  ・R4目標達成率：115% ・対前年同期比：135%	<b>S</b>	・引き続き新型コロナの感染状況を踏まえ、適切な感染防止対策を講じる。 ・SNSの効果測定方法の検討	2 誘客に向けた情報発信 ・ブログ・SNS等を利用した観光情報発信 ・コンシェルジュ機能の充実  3 観光拠点施設の運営 ・コロナ感染状況により、感染対策を講じながら適切な施設の開放を行う  4 観光拠点を中心とした周遊観光の促進 ・集客案の実行 ・周遊観光の促進 ・宿泊施設の魅力向上 ・周遊プランの造成
			R3	13,500人	10,257人	C						
			R4	13,500人								
			R5	14,000人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>33 「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進</b> (中土佐町)  <b>【実施主体】</b> ◎・中土佐町 ・(株)中土佐町地域振興公社	(1) 黒潮本陣宿泊者数 10,394人(H30)	R2	10,394人	6,998人	D	<b>1 施設リニューアル</b> ・黒潮本陣大規模改修工事業基本構想、実施設計、予算申請、県事業申請、改修工事着進捗状況確認、改修工事完了  <b>2 誘客促進</b> ・季節感のあるメニューの提供 ・ブログ・SNS等を利用した情報発信	<b>1 施設リニューアル</b> ・大規模改修工事についての検討・打合せ(4月) ・実施設計書作成(5~6月) ・中土佐町予算申請、決定(7/19) ・高知県観光振興推進総合支援事業交付決定(10/13) ・大規模改修工事(9月~)  <b>2 誘客促進</b> ・季節感あるメニューの提供(4~12月) ・ブログ・SNS等を利用した情報発信(4~12月)	(1)黒潮本陣宿泊者数 7,851人(11月末時点)  ・R4目標達成率:151% ・対前年同期比:146%	S	<b>(成果)</b> ・高知県観光振興推進総合支援事業の交付決定を受けて改修工事を開始することができた。工事は順調に進んでおり、今年度中に完成する予定。 ・初鯉など季節感あるメニューの提供やSNS等の発信を行うことができた。  <b>(課題)</b> ・リニューアル後の営業再開に向けて、改善点を明らかにする。 ・よりお客様に満足していただける、メニュー・情報発信を模索する。  <b>(今後の方向性)</b> ・工事期間中に、従業員の業務内容、業務改善点等の話し合いの場を設けて課題を具体化し、それに対して研修等を実施する。 ・大規模改修期間中に新メニューの開発や情報発信等の改善を行う。	【No.32へ統合】
			R3	10,394人	7,548人	C						
			R4	7,796人								
			R5	11,000人								
		(2) 黒潮工房入込数 18,652人(H30)	R2	18,652人	14,406人	C			(2)黒潮工房入込数 11,739人(11月末時点)  ・R4目標達成率:126% ・対前年同期比:106%	S		
			R3	18,652人	15,342人	C						
			R4	13,989人								
			R5	20,000人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>34 栲原町の体験型・滞在型観光の推進 (栲原町)</b>  <b>【実施主体】</b> ◎・ゆすはら雲の上観光協会 ・栲原町商工会 ・栲原町 ・松原まろうど会 ・坂本龍馬脱藩の郷ゆすはらであいの会	宿泊者数 8,285人 (H30)	R2	8,300人	7,999人	B	1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実 ・津野山神楽や太郎川公園を活用した森林アスレチック等の体験プログラムの実施  2 誘客活動 ・映像やパンフレットによるPR  3 森林セラピー受入態勢の強化 ・久保谷森林セラピーガイドの育成・スキルアップ  4 受入基盤の整備 ・基本構想の再策定 ・太郎川公園エリアの整備（きつつき学習館の改修、多言語対応サインの設置） ・キャンプ場等運営アドバイザーの委託 ・生産出荷体制の充実・支援	1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実 ・第一回みどりの学習旅行視察研修（4/21～22：大学生人）  2 誘客活動 ・栲原令和の森林づくり（4/29：81人） ・森林フェスティバル開催（5/29：280人） ・隈研吾オリジナルグッズの販売 ・土佐牛丸かじり大会の開催（7/24：100名） カルスト牛でのBBQ、町産ブドウによるワインの販売（50本）  3 森林セラピー受入態勢の強化 ・博覧会受入環境等整備事業費補助金（交付決定：R4.10.3 事業費：9,740千円 県補助金：6,493千円）  4 受入基盤の整備 ・地域観光課自然・体験型AD申請(8月実施)。「栲原町にある草花フィールドについての調査・検討事業」 ・観光振興推進総合支援事業費補助金(観光資源磨き上げ事業) 「きつつき学習館」のリニューアル、多言語対応サインの設置等（変更交付決定： 事業費：55,469千円 県補助金：27,734千円） 「太郎川公園アクティビティ施設整備事業」（交付決定：R4.11.7 事業費：3,850千円 県補助金：1,925千円） ・博覧会受入環境等整備事業費補助金（要望調査票提出：R4.4.15） 太郎川公園（変更交付決定：R4.11.16 事業費：50,771,600 県補助金：33,847千円） 久保谷（交付決定：R4.10.3 事業費：9,740千円 県補助金：6,493千円） 田野々（交付決定：R4.11.15 事業費：9,999千円 県補助金：6,666千円） 姥ヶ滝（変更交付決定：R4.12.2 事業費： 県補助金：20,005千円） ・「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」（四国運輸局直轄事業）（採択：R4.7.26） （R4.10.5 事業方向性共有会議実施） ・基本構想の策定に向け、役場内意見収集と町民意見交換会を実施 ・産振アドバイザー（課題一貫支援型）を助言指導を受けた基本構想・基本計画の策定 （8/24,9/13,10/5,11/4,11/29,12/1）	4,172人（11月末時点）  ・R4目標達成率：156% ・対前年同期比：67%	S	（成果） ・植樹体験等の森林づくり体験やツリークライミング等の体験メニューの構築及び体制づくりが推進され、町民の認知度も向上している。 ・観光補助金の活用で、公園エリアの整備に着手（年度内完成予定） →きつつき学習館の改修 →公園内多言語サインの設置 →アクティビティ施設の整備 ・博覧会受入環境等整備事業費補助金の活用（年度内完成予定） →公園内湿性植物園の整備  （課題） ・オープンに向け、住民説明や各種補助金の申請手続、整備計画の検討をスケジュール管理をしながら行う必要がある。 ・役場内や町内関係機関を横断的にまたがっている計画であるため、全員と情報共有をしながら意志決定を行うことができる体制づくりをする必要がある。	1 体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実 ・津野山神楽や太郎川公園を活用した森林アスレチック等の体験プログラムの実施  2 誘客活動 ・映像やパンフレットによるPR  3 森林セラピー受入態勢の強化 ・久保谷森林セラピーガイドの育成・スキルアップ  4 受入基盤の整備 太郎川公園再生計画について ・基本計画の策定 ・実施設計 ・キャンプ場等運営アドバイザーの委託 ・生産出荷体制の充実・支援
			R3	7,500人	7,565人	A						
			R4	4,000人								
			R5	4,000人								
			R2	99,800人	62,337人	D						
		R3	90,000人	61,112人	D							
		R4	57,000人									
		R5	103,000人									



分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>35 清流と風と歴史に 会えるまち津野町まるごと と体感！～観光集客 アップ作戦～</b> (津野町)  <b>【実施主体】</b> ◎・津野町	主要宿泊施設 年間 宿泊数 10,950人 (H30)	R2	7,033人	4,695人	D	<b>1 受入体制の強化</b> ・観光推進組織の検討継続 ・四国カルスト広域連携による関係市町会議への参加 ・観光ガイドの育成、スキルアップ  <b>2 観光商品の造成と磨き上げ</b> ・津野町の四季や文化を生かす体験プログラムや食など観光商品の造成と磨き上げ  <b>3 観光拠点整備と磨き上げ</b> ・誘客のための情報発信  <b>4 情報発信と誘客活動</b> ・PR強化	<b>1 受入体制の強化</b> ・(一社)奥四万十高知の設立 ・久万高原町との連携強化 ・町内観光関連事業者による津野町観光推進会議の実施(7月) ・星ふるヴィレッジTENGUにて観光案内実施(GW) ・観光ガイド「てっぺん四万十風の会」研修実施(7月) ・地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修会実施(9月、観光庁) ・持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光地経営の現状課題調査事業による報告(11月、国交省)  <b>2 観光商品の造成と磨き上げ</b> ・おんぼく手法を活用した津野町体験キャンペーン「つものつねね#3」開催(R4.8～9月、20プログラム)  <b>3 観光拠点整備と磨き上げ</b> ・カルスト学習館がカルストテラスとしてリニューアルオープン(4月) ・カルストテラスにてe-bikeレンタサイクル事業開始(4月) ・カルストテラスでのイベント開催(5回) ・おもてなし一斉清掃(10月)  <b>4 情報発信と誘客活動</b> ・広報の実施(テレビ、ラジオ、SNS、HP、YouTube、ほっとこうち他) ・「津野ぶら」HP、SNSでの情報発信 ・津野トック定期周遊 ・土佐の観光創生塾受講 ・Instagramハッシュタグキャンペーン開始「#いつでも映えるまち津野町」(6/15～1/31) ・津野町新観光パンフレットの作成 ・津野町イルミネイト(12/21～1/7)	9,814人(10月末時点)  ・R4目標達成率：124% ・対前年同期比：152%	S	(成果) ・奥四万十観光協議会が法人化し、(一社)奥四万十高知を設立。事務所を津野町内に移転。 ・「つものつねね#3」では、過去最多の20プログラムを造成。  (課題) ・新規観光ガイド発掘及び植物系観光ガイドの育成。 ・四国カルスト広域連携に向けた取り組みの強化。  (今後の方向性) ・動植物、歴史、文化等に関わる方々がガイドと連携できる仕組みづくりの検討 ・四国カルスト連携市町会議の実施	<b>1 受入体制の強化</b> ・観光推進組織の検討継続 ・四国カルスト広域連携による関係市町会議への参加 ・観光ガイドの育成、スキルアップ  <b>2 観光商品の造成と磨き上げ</b> ・津野町の四季や文化を生かす体験プログラムや食など観光商品の造成と磨き上げ  <b>3 観光拠点整備と磨き上げ</b> ・誘客のための情報発信  <b>4 情報発信と誘客活動</b> ・PR強化
			R3	13,342人	10,762人	C						
			R4	13,568人								
			R5	14,000人								
		主要観光施設 入込 者数 261,094人 (H30)	R2	238,854人	229,966人	B						
			R3	289,438人	318,963人	S						
			R4	298,997人								
			R5	300,000人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>36 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト</b> (津野町) <b>【実施主体】</b> ◎・津野町 ・(一財)天狗荘	天狗荘の年間宿泊数 7,646人 (H30)  ※R3.7～天狗荘は星ふるヴィレッジTENGUへ名称変更	R2	4,645人	2,750人	D	1 観光拠点整備 ・星ふるヴィレッジTENGU周辺エリア  2 受入体制の強化 ・人材確保・人材育成 ・四国カルストエリア全体での受入強化  3 観光商品の造成と磨き上げ ・地域資源を生かした観光商品の造成と磨き上げ  4 情報発信と誘客活動 ・PR強化	1 観光拠点整備 ・カルスト学習館が「カルストテラス」としてリニューアルオープン(県自然共生課、4/6リニューアルオープン) ・カルストテラスの運用について継続的に協議 ・自然探勝路完成(県自然共生課、9月) ・カルストテラスカフェオープン(9月～)  2 受入態勢の強化 ・(一財)天狗荘がe-bikeレンタサイクル事業開始(4月～) ※10月末e-bike利用者数：168台 ・県立自然公園指定管理者審査の結果、(一財)天狗荘が候補者となる  3 観光商品の造成と磨き上げ ・カルストテラスにて、山野草観察会やアナグマ観察会などのイベント開催(5月2回、6月2回、7月1回、8月1回、9月1回、11月1回) ・星ふるヴィレッジTENGUによる皆既月食観察会開催(11月) ・地域活性化起業人によるプラネタリウム映像制作  4 情報発信と誘客活動 ・地域活性化起業人によるプラネタリウムでの星の学習(7月：小学生、11～12月予定：中学生) ・地域活性化起業人による親子星空観察会の開催(11月：町内3小学校) ・星のソムリエ養成講座の受講者への費用補助(1名)	6,887人(10月末時点)	・R4目標達成率：118% ・対前年同期比：150%	<b>S</b> (成果) ・リニューアルしたカルストテラスの入込が増加。 R4.4～10月：39,532人 R3.4～8月：3,054人(R3.9～改修のため休業) ・皆既月食観察会を天文台でも実施。望遠鏡ごしの皆既月食をスマホで撮影するなど参加者が楽しめ、記念になるコンテンツとなる可能性がある。  (課題) ・自然探勝路整備による植生への影響 ・星ふるヴィレッジTENGUの人材確保と育成 ・星ふるヴィレッジTENGUでの魅力的な食の提供 ・今回の皆既月食観察会は宿泊者メインのイベントだったが、通常時の星空観察会も含め一般客へのサービスまでには至っていない。姫鶴荘、キャンプ場など四国カルストエリアの宿泊客を巻き込んだ一般客向け有料での星空観察会を実施できる可能性があるが、スタッフ不足が課題となっている。	1 観光拠点整備 ・星ふるヴィレッジTENGU周辺エリア  2 受入体制の強化 ・人材確保・人材育成 ・四国カルストエリア全体での受入強化  3 観光商品の造成と磨き上げ ・地域資源を生かした観光商品の造成と磨き上げ  4 情報発信と誘客活動 ・PR強化
			R3	9,900人	7,668人	C						
			R4	10,000人								
			R5	11,000人		-						
		四国カルストの入込者数 75,012人 (H30)	R2	53,013人	42,656人	C						
			R3	98,000人	109,463人	S						
			R4	104,000人								
			R5	110,000人		-						

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	37 わざわざいこう『海洋堂ホビー館四万十』を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)  【実施主体】 ◎・四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外	ホビー館年間入場客数 2.7万人(H30)	R2	5万人	2.1万人	D	<p>1 海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホビー館リニューアルオープン(4/2)</li> <li>・改修に伴うPR活動及び効果検証</li> <li>・直販コーナーの商品募集</li> </ul> <p>2 ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の開催</li> <li>・町内小・中学校での体験教室開催</li> <li>・SNSを活用したPR</li> <li>・イベントの開催</li> </ul> <p>3 関連機関との連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント開催、町周遊企画との連携</li> <li>・海洋堂Space Factoryなんこくの連携</li> </ul>	<p>1 海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルオープンイベント開催(4/2)</li> <li>・団体客(修学旅行等)の受入対応が可能となった。</li> <li>・物販、休憩スペースが出来たことで、滞在時間の延長に適した空間となっている。</li> <li>・直販所コーナーへの出品は打井川地区限定とし、米や野菜等の出店が行われている。</li> </ul> <p>2 ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウルトラマン企画展の開催(R4年5月30日まで)</li> <li>・アリス企画展の開催(R4年7月16日～R5年5月29日)</li> <li>・各種SNS(Instagram, Twitter, Facebook)からの広報の実施</li> <li>・GW、夏休み、クリスマスイベントの開催</li> <li>・ホビー館50万人達成イベント(10/8～10/10)</li> </ul> <p>3 関連機関との連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町と南国市の連携企画に関する協議(随時)</li> <li>・特別展「フィギアの国のアリス」における「海洋堂スペースファクトリーなんこく」との連携</li> <li>・アリス周遊企画(謎解きの旅、カードラリー)の開催(R4年7月16日～R5年3月1日)</li> </ul>	22,579人(11月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4目標達成率: 68%</li> <li>・対前年同期比: 117%</li> </ul>	<p><b>D</b></p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体受入スペースをリニューアルに合わせて整備したことにより、雨天時には急遽団体客の受入といった相談もあり、悪天候時にも対応可能な貴重な観光施設となっている。</li> <li>・団体客受入件数(R3: 8件⇒R4: 15件)</li> <li>・ウルトラマン企画展など企画の充実による入館者数の回復</li> <li>・アリス展では新たな客層(女性客)の掘り起こしが出来た。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した企画展、集客方法の検討</li> <li>・直販コーナーの充実</li> <li>・広報体制の充実</li> </ul> <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周遊企画の集約</li> <li>・集客増に繋がる周辺地区との連携</li> <li>・人員体制の見直し(広報担当の新設)</li> <li>・魅力的な広報にかかるアドバイザー派遣の検討</li> </ul>	<p>1 PR活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員体制の見直し(広報担当の新設)</li> <li>・魅力的な広報手段の検討</li> </ul> <p>2 ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の開催</li> <li>・SNSを活用したPR</li> <li>・イベントの開催</li> </ul> <p>3 関連機関との連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周遊企画(南国市、四万十町)の展開</li> <li>・海洋堂Space Factoryなんこくとの連携</li> </ul>
			R3	5万人	2.2万人	D						
			R4	5万人								
			R5	5万人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>38 四万十町観光交流促進事業</b> (四万十町) <b>【実施主体】</b> ◎・四万十町 ・(一社)四万十町観光協会 ・四万十町商工会等	施設等※ 利用者数 93万人 (H30)  ※町内宿泊施設、道の駅	R2	93万人	68.3万人	C	<b>1 受入体制の充実・整備</b> ・観光ガイドの充実、周遊ルートの開発 観光ガイドの育成強化とよりよいサービスの提供 商品開発に関するセミナー等の受講  <b>2 観光資源の造成・磨き上げ</b> ・体験プログラムの造成、磨き上げ 自然や文化、食を活かした体験プログラムの造成、磨き上げ  <b>3 情報発信力の強化</b> ・効果的な情報発信 イベントへの参加、商談会等への出展	<b>1 受入体制の充実・整備</b> ・～5/30 海洋堂ウルトラマンフィギュア展を主とした周遊企画 ・4/10 四万十町公式アプリゲーム『40010～ヒミツのともだち～』リリース ・松葉川温泉に「経営改善支援アドバイザー事業」を導入(総務省地域力創造アドバイザー-細川氏) ・8/1～しまんとシェアサイクルの利用開始(シェアサイクルの導入による町内周遊の促進) ・博覧会推進事業費補助金を活用した四万十町遠山の整備(希少植物の観察ツアーが実施される遠山に休憩所等として利用できる東屋を整備)→12/12採択  <b>2 観光資源の造成・磨き上げ</b> ・実施イベント等 4月：海洋堂ホビー館、海洋堂かっぱ館リニューアルオープン こいのぼりの川渡し(4月～5月) 四万十川リバーフェスタ 5月：松葉川シャクナゲトレッキング 奥四万十トレイルレース 遠山希少植物観察会 7月：金太郎夜市 海洋堂ホビー館 不思議の国のアリス展 開催 10月：海洋堂ホビー館50万人突破・かっぱ館10周年記念イベント 11月：米こめフェスタ(3年ぶりの通常開催) 台地まつり ・6月より『四万十川で自然を望みながら手ぶらで楽しむBBQ』プランの開始(観光協会) ・四万十町観光協会 旅行業(地域限定)取得 ・「らんまん」放送に向け、観光客誘致を視野に町内の牧野博士の足跡をたどる「四万十町植物観察モニターツアー」を企画→10月に第1回を実施 ・三島キャンプ場再整備にかかる実施設計の作成  <b>3 情報発信力の強化</b> ・商談会等：4回(4月～12月) ・改修後のHPやSNSによる定期的な情報発信	49.8万人(10月末時点)  ・R4目標達成率：88% ・対前年同期比：115%	<b>B</b>	(成果) ・観光協会に在籍する地域活性化企業人(JTBからの派遣)を中心とした着地型旅行商品の開発及びモニターツアーの実施  (課題) ・観光商品の磨き上げと効果的な情報発信による周遊の促進  (今後の方向性) ・観光ガイドの育成強化 ・観光資源の魅力向上	<b>1 受入体制の充実・整備</b> ・観光ガイドの充実、周遊ルートの開発 観光ガイドの育成強化とよりよいサービスの提供 商品開発に関するセミナー等の受講  <b>2 観光資源の造成・磨き上げ</b> ・体験プログラムの造成、磨き上げ 自然や文化、食を活かした体験プログラムの造成、磨き上げ  <b>3 情報発信力の強化</b> ・効果的な情報発信 イベントへの参加、商談会等への出展
			R3	95万人	71.9万人	C						
			R4	97万人								
			R5	100万人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>39 四万十町オアシス風観光交流拠点施設整備事業</b> (四万十町)  <b>【実施主体】</b> ◎・四万十町 ・(株)あぐり窪川 ・地域団体	道の駅※ 集客数 43.3万人 (H30)  ※道の駅あぐり窪川、道の駅四万十大正、道の駅四万十とおわ	R2	45万人	34.7万人	C	<b>1 受入体制の充実・整備</b> ・受入体制の充実・整備 四万十川流域等での交流拠点(道の駅3か所を含む)を核とした周遊ルートの形成 旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション オアシス風観光交流拠点の活用・運営等について、地域団体との調整・協議  <b>2 観光交流拠点の整備</b> ・オアシス風観光交流拠点の整備 整備に向けた検討、基本構想策定 ・花をテーマとした施設の整備 各地域での花をテーマとした施設の整備  <b>3 周遊、滞留・滞在型観光の推進</b> ・情報発信力の強化 観光案内板設置によるPR、道の駅等との連携による情報発信	<b>2 観光交流拠点の整備</b> ・オアシス風観光交流拠点の整備 ステップアップ事業 交付決定(10/31) 基本計画等委託事業 プロポーザル審査会(11/30) 委託業者・関係機関との打合せ及び現地確認(12/21) ・花をテーマとした施設の整備 <b>【窪川】</b> 博覧会受入環境等整備支援事業費補助金を活用した遠山の整備 <b>【十和】</b> ご成婚の森ハート植樹の準備 三島景観(菜の花等)の維持管理 <b>【大正】</b> 轟公園(ツツジ)の維持管理	26.6万人(10月末時点)  ・R4目標達成率:89% ・対前年同期比:121%	<b>B</b>	<b>(成果)</b> ・町と土地所有者にて話し合いを行い、予定地取得の目処が立っている  <b>(課題)</b> ・基本計画策定のための地域住民参加によるワークショップの実施  <b>(今後の方向性)</b> ・産業振興推進総合支援事業費補助金のステップアップ事業を活用した基本計画等の策定	<b>1 受入体制の充実・整備</b> ・受入体制の充実・整備 四万十川流域等での交流拠点(道の駅3か所を含む)を核とした周遊ルートの形成 旅行会社へのセールス、旅行雑誌等へのプロモーション オアシス風観光交流拠点の活用・運営等について、地域団体との調整・協議  <b>2 観光交流拠点の整備</b> ・オアシス風観光交流拠点の整備 実施設計の作成、用地購入、土地の造成 ・花をテーマとした施設の整備 各地域での花をテーマとした施設の整備  <b>3 周遊、滞留・滞在型観光の推進</b> ・情報発信力の強化 観光案内板設置によるPR、道の駅等との連携による情報発信
			R3	48万人	35.6万人	C						
			R4	51万人								
			R5	54万人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	40 シップラインと道の駅を核とした四万十町(十和地区)の観光拠点整備事業(四万十町) 【実施主体】 ◎・四万十町 ・道の駅四万十とおわ	(1) 道の駅「四万十とおわ」入込客数8.5万人(H30)	R2	9.9万人	8.0万人	C	1 道の駅「四万十とおわ」の運営強化 ・道の駅四万十とおわ連絡会議の開催 ・周辺施設との体験プログラムの開発 ・地域内連携によるイベント開催 ・おかみさん市との連携によるバイキングの開催(週1回) ・地域産品を活かしたお土産商品の開発	1 道の駅「四万十とおわ」の運営強化 ・道の駅四万十とおわ連携会議(月1回) ・バイキングの開催(週1回)、6月～シニア割の開始 ・奥伊予、四万十街道スタンプラリー(4月24日～) ・新茶フェア(4月23日～5月8日) ・とおわパンフェア(6月17日～6月19日) ・15周年感謝祭(7月1日～7月3日) ・夏休みフェア(8月7日～8月31日) ・新栗フェア(9月17日～10月2日) ・200万人達成イベント(11月23日) ・新芋フェア(12月1日～12月25日) ・土産商品：カレーパンの販売拡大、オリジナルグッズ(トートバッグ、Tシャツ、バッジ)の販売	90,091人(11月末時点) ・R4目標達成率：113% ・対前年同期比：134%	S	(成果) ・入込客数および売り上げの増加(カレーパンを中心としたファストフードの売上増)  (課題) ・魅力的な店づくり ・人材確保及び育成  (今後の方向性) ・道の駅スタッフ向けの研修実施 ・A D派遣の検討	1 道の駅「四万十とおわ」の運営強化 ・道の駅四万十とおわ連絡会議の開催 ・周辺施設との体験プログラムの開発 ・地域内連携によるイベント開催 ・おかみさん市との連携によるバイキングの開催(週1回) ・地域産品を活かしたお土産商品の開発 ・道の駅スタッフ向けの研修実施
			R3	12万人	9.2万人	C						
			R4	12万人								
			R5	12万人								
	(2) シップライン利用者数	R2	7,200人	10,920人	S	2 四万十川シップラインの運営 ・人員確保 ・周辺施設との連携イベントの開催 ・シップライン定例会の開催 ・スタートデッキへの輸送方法の改善 ・デジタルサイネージの検討および導入	2 四万十川シップラインの運営 ・2万人達成イベント(4/16) ・シップライン定例会の開催(5月、6月、7月) ・デジタルサイネージの導入(4月～) ・ゴールデッキの改修工事、1年点検の実施(6月) ・シップライン指定管理公募(9月) ・シップライン選定委員会(11月)	7,539人(11月末時点) ・R4目標達成率：103% ・対前年同期比：113%	A	(成果) ・デジタルサイネージの導入によって説明時間の短縮が可能となることで、1日の最大利用者数が増加した。(150人前後 → 200人前後)  (課題) ・繁忙期におけるスタッフ確保(利用者数増加の制限要因) ・人材不足による安定的な運営 ・管理者の変更に伴う安定運営体制の構築、対岸への輸送方法の検討  (今後の方向性) ・業務委託から指定管理への円滑な移行	2 四万十川シップラインの運営 ・運営体制の確立および人員確保 ・周辺施設との連携イベントの開催 ・スタートデッキへの新たな輸送方法の検討	
		R3	1万人	8,269人	C							
		R4	1.1万人									
		R5	1.2万人									
	(3) シップライン売上高	R2	1,283万円	2,499万円	S			1,749万円(11月末時点) ・R4目標達成率：131% ・対前年同期比：124%	S	・継続的な人員確保 ・定期的な勉強会の開催(安全な運行体制)		
		R3	1,782万円	1,887万円	A							
		R4	2,000万円									
		R5	2,200万円									

(3) 令和4年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 3 梶原産キジ肉の加工・販売の拡大 ※一般事業（特別分） 令和4年6月27日交付決定</p>	<p>梶原町産キジ肉の加工施設の整備</p>	<p>127,012千円 (48,615千円)</p>
<p>■No. 15 須崎市養殖漁業等のさらなる振興 ※ステップアップ事業 令和4年4月19日交付決定 ※水産加工施設の建設中止により補助事業の変更手続き中</p>	<p>野見湾漁業協同組合における新規水産加工施設建設に関する調査</p>	<p>4,637千円 (2,000千円)</p>
<p>■No. 39 四万十町オアシス風観光交流拠点整備事業 ※ステップアップ事業 令和4年10月31日交付決定</p>	<p>四万十町オアシス風観光拠点の施設整備に係る基本計画等策定支援</p>	<p>8,552千円 (1,751千円)</p>
<p>■No. 23 津野町地産地消・外商販売戦略 ※ステップアップ事業 令和4年11月29日交付決定</p>	<p>持続可能な直販事業の展開に向けた現状調査、商品開発、店舗リニューアル等の検討</p>	<p>5,199千円 (2,000千円)</p>

## 地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況	
高幡	農業	No.13 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト	次世代施設園芸団地で栽培されているトマトの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、加工品の販売促進や輸出の検討を行い、次世代団地の経営強化を図る。	これまでの取り組み（H28～R3）	次世代施設園芸団地での生果販売向けのトマトの生産拡大に向けた適正な栽培管理を実施した。また、トマトカレーやトマトピューレの開発、販売を行った。また、OEM先が製造を中止したことやコストや生産性の面から加工品を製造することを断念した。トマトの生産拡大に向けた病害虫対策の確立と適正な栽培管理に特化した取組を実施した。
		関連する地域AP No.9 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト		R4年度の取り組み	1法人で8月から、ハウス面積の半分でパプリカの栽培を始めた。パプリカはトマトよりも栽培管理が省力であるが、雇用は減らさず、前年度と同数の雇用を維持している。トマト及びパプリカについて、生産性向上のため、病害虫管理を徹底している。
		No.14 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す。	これまでの取り組み（H28～R3）	既存畜舎の補改修等生産体制の構築に取り組み、平野畜産が四国初の養豚農場 HACCP認証を取得した。四万十ポークのブランド化に向けて、地域団体商標登録を目指すとともに、ロゴデザインを募集しブランドマークとして商品へのシールの貼付を開始した。道の駅あくり窪川では、増産のための豚まん加工場が新設された。生産拡大に向けて、四国デュロックファーム（R3着工）と渡辺畜産（R4着工予定）について、畜舎整備に関する住民説明会を行うとともに、増頭計画のシミュレーションを作成中。生産効率の向上のための衛生対策の徹底を図った。
		関連する地域AP No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト No.24 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備		R4年度の取り組み	生産拡大に向けて四国デュロックファーム（R3着工）の畜舎が完成し渡辺畜産が畜舎の工事に着手した。四万十ポークブランドを活用した販路拡大では、四国デュロックファームが商談会への出展などにより着実な販路拡大に取り組んでおり、平野畜産が精肉加工所の整備に着手している。四万十ポークのブランド化に向けて事業実施体制の検討が必要であり、構成員の方向性の共有を図っている。
		No.15 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト	北幡地域で生産される栗の産地力強化に向け、新改植を進めるとともに、低樹高栽培の普及や労働力補完の仕組みづくり等により生産拡大を図る。また、2次加工施設の整備などを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。	これまでの取り組み（H28～R3）	生産量の増大に向け、巡回指導等により新改植の推進や低樹高剪定技術の普及に取り組んだ。また、十和道の駅の「おちやくカフェ」での新商品の開発・販売支援を行うとともに、ペースト工場の建設や高品質ペースト機器の導入を支援した。また、栗を利用した加工品を製造する設備の増強を図る「しまんと地栗工場」がR3.5月に竣工した。
		関連する地域AP No.6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト		R4年度の取り組み	特選栗は指導により適正に剪定を行っており生育は順調である。営農意向調査によりニーズを確認しているが栗の新植希望はない。新工場については、産業振興アドバイザーの活用により体制整備による量産体制の向上や新商品の開発を行った。催事等への出店は21回と昨年の140%である。
		No.16 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト	J A 土佐くろしお管内（須崎市・中土佐町・津野町）で栽培するミョウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用スキーム、優良種茎の安定供給体制を構築する。また、日本一の「ミョウガ」産地として、一次・二次・三次が連携し、認知度向上に向けた取り組みを推進することにより、ミョウガの消費拡大を目指す。	これまでの取り組み（H28～R3）	ミョウガの生産拡大のためのヤシガラ培地活用施設（ストックヤード）が完成し稼働開始。ミョウガ料理メニューの考案や、地域内外の事業者と連携した消費宣伝活用を行い、また収量、品質の向上に向けた栽培講習会、試験圃の設置を行った。
		関連する地域AP No.1 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト		R4年度の取り組み	ヤシガラ培地活用スキームの評価や、コロナ状況下での販売促進活動、収量、品質の向上に向けた取り組み周知、循環型養液システムの推進を行った。